

大学時代の環境が与える個人のキャリア形成に関する調査報告書

1 はじめに

本調査報告書は、大学時代の諸活動（学業への取り組み、成績、課外活動、それ以外）とその後のキャリアについて調査したものである。大学時代の学習環境や正課や課外活動への取り組み、大学時代の充実度、偏差値やゼミ生活などが、キャリアデザインや個人の能力の開発にいかなる影響を及ぼしているかを調査する。具体的な調査項目としては、卒業後の年収、出世のスピード、卒業後の勉学意欲、転職意識や回数、起業意識などと本人の大学時代の関係を調査した。

東京大学が高校時代の勉強時間と卒業後に進路や内定先の満足度などの調査し（2005年に高校3年生であった4000人を追跡調査したもの）、勉強時間が長かったグループが就職内定率や内定先への満足度が高いという結果を発表した。本調査は、これと関係する調査であるが、現在社会人になっている男女に対する調査であり、入学した大学と大学時代の取り組みが、その後のキャリアにいかなる影響を及ぼしているかを調査している。

当初、調査をする際の動機は、体育会に所属する学生の就職活動が、サークルやサークルなどに所属しない学生よりも高い就職率と満足度をもつのではないかという仮説にあった。体育会に所属する学生は、1）先輩後輩の上下関係が厳しく、職場内の命令と服従という関係についても容易に理解し、対応できること、2）理不尽な先輩の要求に従うなど、忍耐力などを養っていることで、職場内外で受けるストレスにも強いこと、3）挨拶などの礼儀についても一般の学生よりも身に着けており、職場内外の人間関係の構築にプラスに働く、4）卒業した先輩が口利きをしてくれる、というような認識から、人事受けが良く、就職活動が円滑に行われるのではないかと考えていた。

就職活動は、当然のことであるが、会社が受け入れ姿勢を示さなければならない。体育会の出身者が有利になるような傾向が発見できれば、それは就職後の社内における活動も考慮された結果のはずである。すなわち、体育会出身者は、社内でも高く評価され、出世も速く、満足度の高いキャリアを形成するのではないかという仮説である。

もし、そうであれば、インテリジェントデザイン型組織の構築にとって、大学時代の体育会における人材育成手法は研究対象として重要な位置づけとなる。それは、社内の人材育成に関する重要なデータとなると考える。

調査は、体育会所属学生の就職活動とそれ以外を比較するという意味もあり、ゼミやその他の活動、大学自体の社会的評価、大学時代の充実度など、様々な項目について質問を行った。しかし、調査の結果は、期待以上のものとなった。多くの意外な結果もあり、体育会に限らず、大学時代の充実度の高さが重要であることも分かった。学生生活を満足できた者は、その後の社会生活にプラスに働くようである。もちろん、体育会に固有の問題も発見されているので、各質問項目と回答結果を見ていただきたい。

2 調査の基本データ（回答者の属性）

調査方法は、インターネットによる調査であり、調査の時期は2011年8月である。

サンプルは、20代から50代の男女2878人から回答を得た。今回の調査では、年代や性別に同一のサンプル数を確保していない。しかし、無作為抽出ではなく、各年代と男女の回答数が質問事項に対してある程度になるまでサンプル数を増やした。その理由は、50代女性の大学進学率の低さを勘案したため

である。同年代の女性は、全体に占める割合が低く、このサンプルを確保するために全体のサンプル数が増えている。回答者で比較的多いのは男性 50 代であり、これは女性と対照的である。

調査の基本的なデータを載せることとする。男女の年代別サンプル数と構成比は以下の通りである。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	20 代男性	299	10.4
2	30 代男性	451	15.7
3	40 代男性	381	13.2
4	50 代男性	450	15.6
5	20 代女性	351	12.2
6	30 代女性	398	13.8
7	40 代女性	328	11.4
8	50 代女性	220	7.6

回答者の居住地の調査もしてあるが、県民性や地域属性を分析対象にしていないため、本報告書では割愛する。

回答者の職種は下記のようになる。19、20、21 は初めから除外してある。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	製造業(食品・食品加工)	56	1.9
2	製造業(飲料)	4	0.1
3	製造業(医薬品・医療用品)	48	1.7
4	製造業(自動車関連)	70	2.4
5	製造業(化粧品・トイレタリー関連)	16	0.6
6	製造業(家電・AV 製品)	66	2.3
7	製造業(住宅・設備関連)	29	1.0
8	その他製造業	389	13.5
9	印刷業・出版業	33	1.1
10	電気・ガス・熱供給・水道業	42	1.5
11	IT・通信・インターネット関連	334	11.6
12	運輸・運送・倉庫業	107	3.7
13	卸売業・商社	175	6.1
14	百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・ドラッグストア	64	2.2
15	家電量販店・ホームセンター・ディスカウントストア	10	0.3

16	その他の小売業	114	4.0
17	金融業・保険業	253	8.8
18	不動産業	116	4.0
19	マスコミ・メディア関連	0	－
20	情報提供サービス・調査業	0	－
21	広告業	0	－
22	飲食業・飲食関連	47	1.6
23	レジャー関連サービス(ホテル、レジャー施設など)	45	1.6
24	医療・福祉関連	299	10.4
25	教育・学校法人	296	10.3
26	理容・美容・エステ	10	0.3
27	その他サービス業	376	13.1
28	その他の業種	358	12.4
29	この中にあてはまる職業のものはない	230	8.0

回答者の雇用形態等は以下のようになる。今回の調査では、就職活動や転職活動等を対象とする調査であるため、専業主婦やアルバイト・パート、学生、無職、その他は対象としていない。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	会社役員	90	3.1
2	会社員	2054	71.4
3	派遣・契約社員	299	10.4
4	専業主婦	0	－
5	アルバイト・パートタイム就労	0	－
6	自営業	245	8.5
7	自由業	190	6.6
8	学生	0	－
9	無職	0	－
10	その他	0	－

回答者の役職(役職名称等を含めて回答者により最も適切と考える役職を選択)は以下のようになる。役職のない社員が最も多い数字となっている。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	会長クラス	10	0.3
2	取締役クラス(CEO、社長、専務、常務、執行役員など)	115	4.0
3	部長クラス(エリアマネージャーなど含む)	141	4.9
4	次長、課長クラス(マネージャーなど)	270	9.4

5	係長、主任クラス	430	14.9
6	平社員クラス	1266	44.0
7	契約社員	274	9.5
8	個人事業主(経営者)	335	11.6
9	その他	37	1.3

役職と年齢・性別のクロスは以下ようになる。役職に就かない年代層は、男性では 20 代と 30 代で最も多く、高い山を形成しているが、40 代では裾野が広がってくる。他方、女性は 40 代でも比較的高い状態を維持している。女性と男性の比較で顕著なのは女性の契約社員が多いことである。

		n 数	会長クラス	取締役クラス	部長クラス	課長クラス	次長、主任クラス	係長、主任クラス	平社員クラス	契約社員	（経営者） 個人事業主	その他
全体		(2878)	0.3	4.0	4.9	9.4	14.9	44.0	9.5	11.6	1.3	
男性	20 代	(299)	－	0.7	1.0	1.3	12.4	74.6	5.4	4.7	－	
	30 代	(451)	0.2	2.2	2.0	9.8	25.1	50.6	4.0	6.2	－	
	40 代	(381)	－	5.5	10.0	20.2	24.4	21.5	4.7	12.9	0.8	
	50 代	(450)	1.6	9.3	16.7	22.9	11.6	14.2	5.6	17.6	0.7	
女性	20 代	(351)	－	1.1	0.9	0.3	3.7	74.9	15.4	2.8	0.9	
	30 代	(398)	0.3	1.8	0.5	1.3	11.3	55.8	17.6	8.5	3.0	
	40 代	(328)	0.3	4.0	1.8	7.0	14.3	36.6	16.5	17.1	2.4	
	50 代	(220)	－	7.3	2.3	5.9	13.6	29.1	8.6	29.5	3.6	

部下の人数は、年齢などによって異なるが、就職活動の満足度等に関わると考え、質問項目に入れている。

あなたが現在抱えている、直属の部下の人数を教えてください。※直属の部下とは、直接指示を出す相手のことを指します。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	10 人以上	255	8.9
2	7～9 人	135	4.7
3	4～6 人	189	6.6
4	1～3 人	449	15.6
5	直属の部下はいない	1850	64.3

配偶者の有無や家族構成に関する質問項目は、調査会社が機械的に含めているものであり、本調査とは直接的な関わりがない。しかし、晩婚化や少子高齢化が就職活動や就職満足度と関わるとすれば、研究課題として取り組む必要がある。

あなたが現在、同居されているご家族を、お選びください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	配偶者(夫または妻)	1471	51.1
2	子供	1074	37.3
3	両親(義理の両親含む)	806	28.0
4	兄弟(義理の兄弟含む)	239	8.3
5	孫	8	0.3
6	上記以外の親族	63	2.2
7	その他	33	1.1
8	同居家族はいない(一人暮らし)	687	23.9

世帯収入は、年齢とともに変化するが、就職活動の満足度等にも関わると推測される。

あなたのご家庭での世帯年収(税込)は、いくらくらいですか。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	300 万円未満	298	10.4
2	300 万円～400 万円未満	393	13.7
3	400 万円～500 万円未満	354	12.3
4	500 万円～600 万円未満	316	11.0
5	600 万円～700 万円未満	248	8.6
6	700 万円～800 万円未満	267	9.3
7	800 万円～900 万円未満	207	7.2
8	900 万円～1000 万円未満	223	7.7
9	1000 万円～1200 万円未満	229	8.0
10	1200 万円～1500 万円未満	162	5.6
11	1500 万円以上	181	6.3
12	答えたくない・わからない	0	-

世帯年収であるが、1,000 万円以上の世帯年収と役職との関係を見ると、部長以上が 128 人(266 人中)、次長、課長から平社員までが 352 名(1966 人中)、契約社員が 23 名(274 名中)、個人事業主が 61 名(335 名中)であった。世帯年収であるため、平社員や契約社員の人個人の年収が 1,000 万円以上であるとは限らない。

直属の部下の人数が10名以上の者は、255名中89名が1,000万円以上の世帯年収と回答している。

学歴に関しては、大学を中心とした就職活動の調査であるため、大学および大学院の卒業（修了）者を対象としている。

あなたの最終学歴を教えてください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	中学卒業	0	－
2	高校卒業	0	－
3	専門学校卒業	0	－
4	短大卒業	0	－
5	大学卒業	2578	89.6
6	大学院卒業	300	10.4
7	答えたくない	0	－

以下の項目は、学部や学科による相違が就職活動に影響を及ぼすか否かを確認するための質問項目である。

あなたが大学時代に最終的に所属していた学部(学科)は、以下のどの分類にあてはまりますか。※下記の中にない場合は、最も近いものを選択するか、9:その他を選択して下さい。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	人文科学系(文学、哲学、歴史、地理、教育、文化、考古学、文化人類学など)	602	20.9
2	芸術系(美術、音楽、デザイン、表現など)	149	5.2
3	語学・コミュニケーション系	182	6.3
4	社会科学系(法学、政治学、経済学、経営学、商学、社会学、観光学、国際関係学、情報学など)	965	33.5
5	自然科学系(物理学、生物学、化学、生命科学、数学、臨床心理学、農水産学など)	257	8.9
6	工学・技術系(機械、土木、通信、電子電気、音響、建築、システム工学など)	472	16.4
7	医学系(医科、歯科)	45	1.6
8	医療・介護・健康・スポーツ系(保健、衛生学、看護学、理学療法、薬学、栄養学、福祉、介護など)	152	5.3
9	家政、保育、服飾被服、その他	54	1.9

3 質問内容

上記の属性を有するサンプルに対して、大学時代の学習環境、成果や課外活動、ゼミへの取り組み、充実度などを質問し、これと就職活動や就職後の企業での活動、それらの満足度を調査した。

大学時代の課外活動の相違が、就職活動に影響を及ぼしているかを確認する質問項目である。先に説明してあるように、本調査を実施する最初の動機は、この問題にあった。

あなたが大学時代に所属していた課外活動などで一番ウエイトの高い活動を教えてください

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	体育会系部活動	425	14.8
2	文化系部活動	402	14.0
3	体育会系サークル	410	14.2
4	文化系サークル	559	19.4
5	学外活動(アルバイトを含む)	992	34.5
6	その他	90	3.1

女性は男性に比較すると体育会部活動に所属する人が少ない。しかし、文化系部活動やサークル活動への所属傾向が顕著にみられるわけではない。

(%)

		n 数	20 代 男性	30 代 男性	40 代 男性	50 代 男性	20 代 女性	30 代 女性	40 代 女性	50 代 女性
全体		(2878)	10.4	15.7	13.2	15.6	12.2	13.8	11.4	7.6
課外活動別	体育会系部活動	(425)	15.1	19.8	13.9	16.2	9.6	10.8	8.0	6.6
	文化系部活動	(402)	6.5	12.9	11.2	20.4	13.4	12.2	11.2	12.2
	体育会系サークル	(410)	13.9	19.0	12.7	11.2	12.7	14.4	12.0	4.1
	文化系サークル	(559)	6.6	14.5	13.1	15.0	13.8	13.6	12.5	10.9
	学外活動:アルバイト含	(992)	10.8	15.1	14.3	15.0	12.0	15.9	11.6	5.2
	その他	(90)	8.9	6.7	11.1	22.2	8.9	11.1	16.7	14.4

各雇用形態別の課外活動所属状況は以下のようになる。

		n 数	会社役員	会社員	派遣・ 契約社員	自営業	自由業
全体		(2878)	3.1	71.4	10.4	8.5	6.6
課外活動別	体育会系部活動	(425)	2.8	79.5	6.8	4.5	6.4
	文化系部活動	(402)	4.7	69.2	9.5	10.9	5.7
	体育会系サークル	(410)	3.4	77.3	8.5	5.9	4.9
	文化系サークル	(559)	2.3	68.9	9.5	11.3	8.1
	学外活動:アルバイト含	(992)	3.0	68.6	13.4	8.6	6.4
	その他	(90)	2.2	61.1	12.2	11.1	13.3

役職と課外活動とのクロスは以下のようになる。

		n 数	会長クラス	取締役クラス	部長クラス	課長クラス	次長、主任クラス	係長、主任クラス	平社員クラス	契約社員	(経営者) 個人事業主	その他
全体		2878	0.3	4.0	4.9	9.4	14.9	44.0	9.5	11.6	1.3	
課外活動別	体育会系部活動	(425)	0.2	4.2	7.3	10.4	17.9	45.4	5.2	8.5	0.9	
	文化系部活動	(402)	0.5	5.2	6.2	11.7	15.4	39.1	9.0	11.9	1.0	
	体育会系サークル	(410)	0.7	3.2	4.9	11.5	16.3	45.1	8.3	9.3	0.7	
	文化系サークル	(559)	－	3.2	4.1	7.0	14.1	45.1	8.8	15.7	2.0	
	学外活動:アルバイト含	(992)	0.3	4.0	3.8	8.8	13.7	44.8	12.3	10.9	1.4	
	その他	(90)	1.1	5.6	4.4	6.7	11.1	38.9	12.2	18.9	1.1	

直属の部下の人数と課外活動のクロスは以下のようになる。

(%)

		n 数	10 人以上	7～9 人	4～6 人	1～3 人	直属の部下はいない
全体		(2878)	8.9	4.7	6.6	15.6	64.3
課外活動別	体育会系部活動	(425)	11.5	4.9	9.6	14.4	59.5
	文化系部活動	(402)	11.4	6.7	9.0	15.4	57.5
	体育会系サークル	(410)	8.8	5.6	5.9	17.6	62.2
	文化系サークル	(559)	5.7	4.7	7.0	17.4	65.3
	学外活動:アルバイト含	(992)	8.5	3.6	4.9	14.8	68.1
	その他	(90)	8.9	2.2	－	11.1	77.8

配偶者の有無と課外活動のクロスは以下のようになる。

(%)

		n 数	配偶者なし (未婚、離別、死別)	配偶者あり(既婚)
全体		(2878)	47.7	52.3
課外活動別	体育会系部活動	(425)	42.4	57.6
	文化系部活動	(402)	43.5	56.5
	体育会系サークル	(410)	45.9	54.1
	文化系サークル	(559)	50.1	49.9
	学外活動:アルバイト含	(992)	50.4	49.6
	その他	(90)	56.7	43.3

年収と課外活動のクロスは以下のようになる。

		n数	300 万円 未満	300 万円 ～ 400 万円 未満	400 万円 ～ 500 万円 未満	500 万円 ～ 600 万円 未満	600 万円 ～ 700 万円 未満	700 万円 ～ 800 万円 未満	800 万円 ～ 900 万円 未満	900 万円 ～ 1000 万円 未満	1000 万円 ～ 1200 万円 未満	1200 万円 ～ 1500 万円 未満	1500 万円 以上
全体		(2878)	10.4	13.7	12.3	11.0	8.6	9.3	7.2	7.7	8.0	5.6	6.3
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	8.0	13.2	12.0	10.6	8.0	12.0	7.3	5.9	8.0	4.7	10.4
	文化系部活動	(402)	12.7	11.9	14.4	7.0	8.5	5.0	7.2	8.7	10.7	5.7	8.2
	体育会系サークル	(410)	7.8	13.2	13.4	11.0	9.5	6.8	7.3	7.3	9.5	8.0	6.1
	文化系サークル	(559)	9.5	14.3	12.0	12.0	9.3	10.0	6.6	6.6	8.4	6.3	5.0
	学外活動:アルバイト含	(992)	11.8	13.6	12.0	11.8	8.3	10.4	7.5	8.5	6.4	5.0	4.8
	その他	(90)	12.2	22.2	4.4	15.6	7.8	10.0	6.7	13.3	3.3	1.1	3.3

年収が 1,000 万円以上の者の課外活動の所属を見ると、体育会が 98 名（425 名中：約 23.1%）、文化系部活が 99 名（402 名中：約 23.5%）、体育会系サークルが 97 名（410 名中：約 23.7%）、文化系サークルが 110 名（559 名中：約 19.7%）、学外活動が 161 名（992 名中：約 16.2%）、その他が 7 名（90 名中：約 7.8%）となった。

比率で見ると、体育会系サークルが一番高いが、体育会と文化系部活との差はほとんどない。課外活動の相違と高額所得との関係は証明できない。

次にゼミの活動に関する質問である。大学のゼミと就職活動にいかなる影響を及ぼしているかを分析する目的である。調査対象者の約 3/4 がゼミに所属していた。

あなたは大学時代にゼミや研究室に所属していましたか。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	所属していた	2184	75.9
2	所属していなかった	694	24.1

年齢別のゼミの所属に関してみると、40 代 50 代は、男女ともにゼミに所属していた割合よりも、無所属の割合が高くなる。これは近年、大学における少人数教育が重要視され、大学の学生定員に対する教員の比率が上昇してきたためであろう。

		n 数	20 代 男性	30 代 男性	40 代 男性	50 代 男性	20 代 女性	30 代 女性	40 代 女性	50 代 女性
全体		(2878)	10.4	15.7	13.2	15.6	12.2	13.8	11.4	7.6
ゼミ所属別	所属	(2184)	11.3	16.0	13.1	15.2	13.4	14.1	10.0	6.8
	無所属	(694)	7.5	14.6	13.5	17.1	8.5	12.8	15.7	10.2

学部や学科は、研究方法や教育方法の相違をもたらすため、ゼミ教育の重要度も異なってくる。ゼミという呼び方や教育方法を採用していない学部・学科もあるためである。

		n 数	人文科学系	芸術系	語学・コミュニケーション系	社会科学系	自然科学系	工学・技術系	医学系	医療・介護・健康・スポーツ系	家政、保育、服飾被服、その他
全体		(2878)	20.9	5.2	6.3	33.5	8.9	16.4	1.6	5.3	1.9
ゼミ所属別	所属	(2184)	19.8	3.8	5.4	33.0	10.8	19.6	0.4	5.4	1.6
	無所属	(694)	24.4	9.5	9.1	35.2	3.0	6.3	5.2	4.8	2.6

課外活動とゼミの所属に関するクロスは以下のようなものである。課外活動の「その他」を選択した人は、ゼミに所属していなかった割合が高い。

		n 数	所属していた	所属していなかった
全体		(2878)	75.9	24.1
課外活動別	体育会系部活動	(425)	74.4	25.6
	文化系部活動	(402)	82.1	17.9
	体育会系サークル	(410)	82.9	17.1
	文化系サークル	(559)	77.1	22.9
	学外活動:アルバイト含	(992)	71.8	28.2
	その他	(90)	61.1	38.9

ゼミの所属と年収とのクロスは以下のようなになる。この調査表では、ゼミに所属するか否かで年収に相違があるとは判断できない。

		n 数	300 万 円未 満	300 万 円～ 400 万 円未 満	400 万 円～ 500 万 円未 満	500 万 円～ 600 万 円未 満	600 万 円～ 700 万 円未 満	700 万 円～ 800 万 円未 満	800 万 円～ 900 万 円未 満	900 万 円～ 1000 万円 未満	1000 万円 ～ 1200 万円 未満	1200 万円 ～ 1500 万円 未満	1500 万円 以上
全体		(2878)	10.4	13.7	12.3	11.0	8.6	9.3	7.2	7.7	8.0	5.6	6.3
ゼミ所属別	所属	(2184)	10.3	13.1	12.4	11.1	8.7	9.3	7.2	8.0	7.7	6.0	6.1
	無所属	(694)	10.4	15.4	12.1	10.5	8.2	9.2	7.2	6.9	8.6	4.5	6.9

以下は、ゼミの所属と直属の部下をもつか持たないかのクロスである。

		n 数	10 人以上	7～9 人	4～6 人	1～3 人	直属の部下は いない
全体		(2878)	8.9	4.7	6.6	15.6	64.3
ゼミに	所属	(2184)	9.1	4.5	6.5	15.5	64.3
	無所属	(694)	8.1	5.3	6.6	15.9	64.1

次に、出身大学の偏差値との関係を調べる。質問項目にあるように、この調査は、本人が高いか低いかを判断しているため、回答者によっては実際の偏差値が「高い」のに「低い」と回答している可能性もある。また、「非常に高い」「やや高い」など、回答者の個人的な評価に強く依存したものとなっている。しかし、本調査の目的は、回答者本人がどのように偏差値を認識し、その結果が、就職活動にどのように影響を及ぼしたのかを見出すためのものである。偏差値が高いと自己評価している回答者は、就職活動の満足度をどのように評価するかという関係を導き出すことに目的がある。

あなたの出身大学の入学時の偏差値はどれくらいでしたか、あてはまるものをお選び下さい。※あなたの覚えている感覚でお答え下さい。※編入されている方は、卒業された大学について教えてください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常に高い	344	12.0
2	やや高い	945	32.8
3	普通	1191	41.4
4	やや低い	284	9.9
5	低い	114	4.0
6	高い計	1289	44.8
7	普通	1191	41.4
8	低い計	398	13.8

調査対象者は、自らの出身大学が低い偏差値であったと考えている人は 13.8%に過ぎなかった。

男女年齢別の表は以下のようになっている。なお、「高い計」は、「非常に高い」と「やや高い」の合計であり、高いグループの合計である。同じく「低い計」は「やや低い」と「低い」の合計になっている。

		n 数	20 代 男性	30 代 男性	40 代 男性	50 代 男性	20 代 女性	30 代 女性	40 代 女性	50 代 女性
全体		(2878)	10.4	15.7	13.2	15.6	12.2	13.8	11.4	7.6
大学 偏差値別	高い計	(1289)	8.9	14.2	12.7	16.9	12.3	13.0	12.4	9.5
	普通	(1191)	10.7	16.1	13.4	14.9	12.1	14.5	11.3	7.0
	低い計	(398)	14.1	19.1	14.3	13.8	12.1	14.6	8.5	3.5

偏差値の高低と役員の比率や派遣社員については仮説を立てることができるかもしれない。高いグループでは、役員の比率が 3.7%であり、低いグループでは 2.0%である。派遣・契約社員では、偏差値の高いグループが 8.4%であるのに対して、低いグループでは 14.8%になる。

		n 数	会社役員	会社員	派遣・ 契約社員	自営業	自由業
全体		(2878)	3.1	71.4	10.4	8.5	6.6
大学偏差値別	高い計	(1289)	3.7	71.0	8.4	8.3	8.6
	普通	(1191)	2.9	72.4	11.1	8.7	5.0
	低い計	(398)	2.0	69.6	14.8	8.5	5.0

さらに詳細に分類してみたものが以下の表になる。

		n 数	会長クラス	取締役クラス	部長	課長クラス	次長、主任クラス	係長、主任クラス	平社員クラス	契約社員	(経営者)	個人事業主	その他
全体		(2878)	0.3	4.0	4.9	9.4	14.9	44.0	9.5	11.6	1.3		
大学偏差値別	高い計	(1289)	0.5	4.4	6.7	10.6	16.4	38.5	7.4	14.0	1.5		
	普通	(1191)	0.3	3.9	3.7	8.9	14.0	47.9	10.4	9.9	1.0		
	低い計	(398)	－	3.0	2.5	6.8	13.1	50.0	13.8	9.3	1.5		

部下の人数については以下の表になる。偏差値の高低が会社の階層構造に関係しているという推測が生まれる。

		n 数	10 人 以上	7～9 人	4～6 人	1～3 人	直属の部下 はいない
全体		(2878)	8.9	4.7	6.6	15.6	64.3
大学偏差値別	高い計	(1289)	11.0	4.8	8.3	16.5	59.3
	普通	(1191)	7.4	5.0	5.7	15.8	66.2
	低い計	(398)	6.3	3.5	3.5	12.1	74.6

大学の偏差値と課外活動については、以下のようになる。偏差値の高いグループは、低いグループに比較すると大学内の課外活動に所属する割合が高い。低いグループは、学外活動の比率が高まる。大学への所属意識が希薄化していることが推測される。

		n 数	非常に 高い	やや 高い	普通	やや 低い	低い	高い計	普通	低い計
全体		2878	12.0	32.8	41.4	9.9	4.0	44.8	41.4	13.8
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	15.1	37.6	36.5	7.8	3.1	52.7	36.5	10.8
	文化系部活動	(402)	12.9	37.8	37.1	9.5	2.7	50.7	37.1	12.2
	体育会系サークル	(410)	15.4	35.4	38.0	8.0	3.2	50.7	38.0	11.2
	文化系サークル	(559)	13.1	34.3	41.1	8.2	3.2	47.4	41.1	11.4
	学外活動:アルバイト含	(992)	8.5	27.1	46.3	13.0	5.1	35.6	46.3	18.1
	その他	(90)	8.9	30.0	46.7	5.6	8.9	38.9	46.7	14.4

		n 数	体育会系 部活動	文化系 部活動	体育会系 サークル	文化系 サークル	学外活動: アルバイト含む	その他
全体		(2878)	14.8	14.0	14.2	19.4	34.5	3.1
大学 偏差値別	高い計	(1289)	17.4	15.8	16.1	20.6	27.4	2.7
	普通	(1191)	13.0	12.5	13.1	19.3	38.5	3.5
	低い計	(398)	11.6	12.3	11.6	16.1	45.2	3.3

偏差値と所得の関係は以下になる。偏差値の高さは所得と相関している。偏差値の高いグループは 1500 万円以上も多い。他方、偏差値の低いグループは、低所得層に多い。

		n 数	300 万円 未満	300 万円 ～ 400 万円 未満	400 万円 ～ 500 万円 未満	500 万円 ～ 600 万円 未満	600 万円 ～ 700 万円 未満	700 万円 ～ 800 万円 未満	800 万円 ～ 900 万円 未満	900 万円 ～ 1000 万円 未満	1000 万円 ～ 1200 万円 未満	1200 万円 ～ 1500 万円 未満	1500 万円 以上
全体		(2878)	10.4	13.7	12.3	11.0	8.6	9.3	7.2	7.7	8.0	5.6	6.3
大学 偏差値別	高い計 (高い+やや高い)	(1289)	7.2	11.6	9.5	10.2	8.5	9.2	8.5	9.3	8.8	7.4	10.0
	普通	(1191)	11.5	13.9	14.4	11.8	9.7	10.0	6.1	6.7	7.8	4.3	3.9
	低い計 (やや低い+低い)	(398)	17.1	19.8	15.3	10.8	6.0	7.5	6.3	5.8	5.8	4.0	1.5

1,000 万円以上の収入を得ている者で、偏差値が非常に高いと回答した者は 126 人 (344 人中:約 36.6%)、やや高いと回答した者は 211 人 (945 名中:約 22.3%)、普通 190 人 (1191 人中:約 16%)、やや低い は 32 人 (284 人中:約 11.3%)、低い 13 人 (114 人中:約 11.4%) となった。偏差値と世帯年収との相関はありそうである。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(世帯収入)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)			
n	1288	397		統計量:F 1.2566	統計量:t 9.8656		統計量:t 10.4780		
平 均	5.933	4.191	1.742	自由度 1 1287	自由度 1683		自由度 728.5255		
不偏分散	9.936	7.908		自由度 2 396	両側P値 0.0000 **		両側P値 0.0000 **		
標本標準偏差	3.152	2.812	0.340	P 値 0.0062 **	片側P値 0.0000 **		片側P値 0.0000 **		

偏差値の高いグループと低いグループでは、世帯収入に有意な差があることがわかる。

次に大学時代の成績との関係について調査した。調査対象者の 85%が平均以上の成績と考えている。したがって、インターネット調査に回答する特殊なサンプルである可能性もある。

あなたの大学時代の成績について、あなたご自身の感覚を教えてください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常に良い	337	11.7
2	やや良い	898	31.2
3	普通	1213	42.1
4	やや悪い	345	12.0
5	非常に悪い	85	3.0
6	良い計	1235	42.9
7	普通	1213	42.1
8	悪い計	430	14.9

1000 万円以上の高額収入を成績の良し悪しと照らし合わせると、非常に良いは 85 人（337 人中：約 25.2%）、やや良い 192 人（898 人中：約 21.4%）、普通 224 人（1213 人中：約 18.5%）、やや悪い 55 人（345 人中：約 15.9%）、非常に悪い 16 人（85 人中：約 18.8%）となった。

偏差値の高低と成績の高低については以下のようなになる。

		n 数	非常に 良い	やや 良い	普通	やや 悪い	非常に 悪い	良い計	普通	悪い計
全体		(2878)	11.7	31.2	42.1	12.0	3.0	42.9	42.1	14.9
大学偏差値別	高い計	(1289)	15.4	35.0	34.7	11.6	3.3	50.3	34.7	15.0
	普通	(1191)	7.8	28.5	51.5	10.2	2.1	36.3	51.5	12.3
	低い計	(398)	11.6	27.1	38.4	18.6	4.3	38.7	38.4	22.9

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(大学の成績)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	1288	397		統計量:F	1.0481	統計量:t	4.1788	統計量:t	4.1272
平 均	2.526	2.766	0.240	自由度 1	1287	自由度	1683	自由度	645.982
不偏分散	0.991	1.038		自由度 2	396	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	0.995	1.019	0.024	P 値	0.5524	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

成績が良いと感じているグループは、偏差値の高いグループに多い。大学の成績が絶対評価であれば、偏差値の高い大学に入学した学生は入学後も良く勉強するという説明が可能であるが、相対評価の場合にはサンプル上の問題が浮上するかもしれない。

成績とゼミの所属に特徴があるかを見てみる。成績が良かったと考える回答者の割合は、ゼミ所属していた回答者の方が無所属の回答者より高い割合になっている。

		n 数	非常に 良い	やや 良い	普通	やや 悪い	非常に 悪い	良い計	普通	悪い計
全体		(2878)	11.7	31.2	42.1	12.0	3.0	42.9	42.1	14.9
ゼミ所属別	所属	(2184)	12.9	33.8	39.3	11.3	2.6	46.7	39.3	13.9
	無所属	(694)	7.9	22.9	51.0	14.1	4.0	30.8	51.0	18.2

ゼミの所属の有無は、成績にもプラスの影響を及ぼしているようである。しかし、因果関係としては、ゼミに所属することで、ゼミでの学習や研究によって学生の成績が向上するのか、そもそも成績の良い学生しか、ゼミに入れないということも考えられる。

成績と課外活動の関係は以下ようになる。

(%)

		n 数	非常に 良い	やや 良い	普通	やや 悪い	非常に 悪い	良い計	普通	悪い計
全体		(2878)	11.7	31.2	42.1	12.0	3.0	42.9	42.1	14.9
課外活動別	体育会系部活動	(425)	12.7	30.4	40.9	11.5	4.5	43.1	40.9	16.0
	文化系部活動	(402)	15.4	33.1	39.8	9.7	2.0	48.5	39.8	11.7
	体育会系サークル	(410)	11.2	30.7	43.2	12.2	2.7	42.0	43.2	14.9
	文化系サークル	(559)	13.1	33.5	38.6	13.2	1.6	46.5	38.6	14.8
	学外活動: アルバイト含	(992)	8.4	29.9	45.6	12.8	3.3	38.3	45.6	16.1
	その他	(90)	21.1	28.9	37.8	6.7	5.6	50.0	37.8	12.2

趣味や時間の過ごし方についての調査は以下ようになる。

あなたの現在の趣味について、あてはまるものをお選び下さい。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	かなり時間やお金を費やしている	330	11.5
2	ある程度時間とお金を使っている	1194	41.5
3	どちらともいえない	543	18.9
4	あまり時間もお金も使わない	519	18.0
5	ほとんど趣味に時間もお金も使わない	224	7.8
6	趣味は無い	68	2.4

下記の表より、偏差値と趣味に関しては、高い偏差値グループは低いグループに比べて趣味に時間やお金を使っていることがわかる。趣味を持てるのは、時間や経済的に余裕がなければ難しい。趣味と所得や働き方との間には関係があると推測できるから、偏差値と所得や働き方との関係をも見いだせる可能性がある。

		n 数	かなり 費やしている	ある程度 使っている	どちらとも いえない	あまり 使わない	ほとんど 使わない	趣味は 無い
全体		(2878)	11.5	41.5	18.9	18.0	7.8	2.4
大学 偏差値別	高い計	(1289)	14.3	44.0	16.1	17.1	6.9	1.7
	普通	(1191)	8.7	39.8	22.3	19.0	7.8	2.4
	低い計	(398)	10.6	38.4	17.6	18.3	10.6	4.5

課外活動と趣味の関係を調査すると以下のようなになる。

(%)

		n 数	かなり 費やしている	ある程度 使っている	どちらとも いえない	あまり 使わない	ほとんど 使わない	趣味は 無い
全体		(2878)	11.5	41.5	18.9	18.0	7.8	2.4
課外活動別	体育会系部活動	(425)	15.3	38.8	20.0	16.5	8.5	0.9
	文化系部活動	(402)	12.4	45.8	18.2	14.9	6.5	2.2
	体育会系サークル	(410)	10.5	44.9	22.4	14.9	6.1	1.2
	文化系サークル	(559)	11.1	44.9	16.5	19.0	6.1	2.5
	学外活動:アルバイト含	(992)	9.8	38.6	18.3	20.5	9.4	3.4
	その他	(90)	14.4	30.0	21.1	21.1	11.1	2.2

学外活動やアルバイト、その他と回答したグループは、他課外活動に所属していたグループより趣味への関与が低かった。課外活動が大学時代の満足感に関係するとすれば、満足の原因は卒業後の趣味の形成などに影響を与えている可能性がある。

ゼミの所属の有無と趣味の関係は以下のようなになる。

		n 数	かなり 費やしている	ある程度 使っている	どちらとも いえない	あまり 使わない	ほとんど 使わない	趣味は無い
全体		(2878)	11.5	41.5	18.9	18.0	7.8	2.4
ゼミ所属別	所属	(2184)	11.7	42.8	18.4	17.6	7.5	2.1
	無所属	(694)	10.8	37.3	20.5	19.3	8.8	3.3

次に大学時代の充実度について調査した。回答者の 60.8%が充実していたグループになり、充実していなかったと回答したのは 12.7%に過ぎない。比較的大学時代の充実度が高いサンプルになっている。

あなたの大学時代の充実度(勉強・遊び・課外活動など)すべてについて、あなたご自身の感覚を教えてください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常に充実していた	666	23.1
2	やや充実していた	1083	37.6
3	普通	764	26.5
4	あまり充実していなかった	308	10.7
5	全く充実していなかった	57	2.0
6	充実していた計	1749	60.8
7	普通	764	26.5
8	充実していなかった計	365	12.7

1,000 万円以上の高額世帯収入と学生時代の充実度を照合すると、非常に充実した人は 166 人（666 人中：約 24.9%）、やや充実した人 213 人（1083 人中：約 19.7%）、普通 137 人（764 人中：約 17.9%）、あまり充実していない人 47 人（308 人中：約 15.5%）、全く充実していなかった人 9 人（57 人中：約 15.8%）という結果である。世帯収入と大学時代の充実度に関係があることは認められる。

偏差値と充実度の関係を見ると、偏差値が高いと感じているグループは、そうでないグループに比較して充実度が高い。偏差値が大学の教育環境の整備や教育の質を反映していると解釈すべきか、あるいは、偏差値の高低それ自体が各人の学生生活に対する態度に影響を与え、同じ教育環境や教育内容が与えられても充実感に差異が生じるのかは判別できない。

いずれにしても、入学に際しての努力の大きさにより、大学生活に対する心構えが異なる可能性は高い。したがって、低偏差値の大学教員の教育方法や大学の教育環境は、高偏差値大学以上に配慮しなければならないことになる。

		n 数	非常に 充実して いた	やや充実 していた	普通	あまり 充実して いなかった	全く 充実して いなかった	充実 していた 計	普通	充実して いなかった 計
全体		(2878)	23.1	37.6	26.5	10.7	2.0	60.8	26.5	12.7
大学偏 差値別	高い計	(1289)	30.0	39.4	21.1	7.8	1.6	69.4	21.1	9.5
	普通	(1191)	17.8	38.6	31.5	10.7	1.4	56.4	31.5	12.1
	低い計	(398)	16.8	28.9	29.4	20.1	4.8	45.7	29.4	24.9

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(大学時代の充実度)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	397	1288		統計量:F	1.2919	統計量:t	9.4540	統計量:t	8.8369
平 均	2.665	2.116	0.549	自由度 1	396	自由度	1683	自由度	597.039
不偏分散	1.238	0.959		自由度 2	1287	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	1.113	0.979	0.134	P 値	0.0012	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

やや低い+低いグループは、非常に高い+やや高いグループに比較して、平均で 0.549 高い回答となっている。つまり、偏差値の高い大学に在籍している人は、大学生活における充実度が高い。

低いグループと高いグループの比較では、さらに明瞭になる。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高い1と低い5(大学時代の充実度)

変 数	高い(1)	低い(5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	343	113		統計量:F	1.4087	統計量:t	7.5560	統計量:t	6.9333
平 均	1.950	2.823	0.873	自由度 1	342	自由度	454	自由度	167.511
不偏分散	1.030	1.451		自由度 2	112	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	1.015	1.204	0.190	P 値	0.0209	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

大学時代の成績と大学時代の充実度の関係は以下ようになる。

対応のない2群の母平均の差の検定 成績の良いグループと悪いグループ(大学時代の充実度)

変 数	良い(1,2)	悪い(4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	1234	429		統計量:F	1.5702	統計量:t	10.6174	統計量:t	9.5317
平 均	2.037	2.629	0.592	自由度 1	1233	自由度	1661	自由度	627.83
不偏分散	0.863	1.355		自由度 2	428	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	0.929	1.164	0.235	P 値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

成績が良いグループと悪いグループの比較では、さらに顕著になり、成績の良し悪しが充実度と関係していることは明瞭である。

対応のない2群の母平均の差の検定 成績の良い1と成績の悪い5(大学時代の充実度)

変 数	良い(1)	悪い(5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	336	84		統計量:F	1.8266	統計量:t	6.8782	統計量:t	5.7578
平 均	1.795	2.667	0.872	自由度 1	335	自由度	418	自由度	106.78
不偏分散	0.928	1.695		自由度 2	83	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	0.963	1.302	0.339	P 値	0.0002 **	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

ゼミの所属の有無も充実度には関係しているようである。

		n 数	非常に 充実して いた	やや 充実して いた	普通	あまり 充実して いなかった	全く 充実して いなかった	充実して いた 計	普通	充実して いなかった 計
全体		(2878)	23.1	37.6	26.5	10.7	2.0	60.8	26.5	12.7
ゼミに 所属別	所属	(2184)	24.7	39.1	24.9	9.7	1.6	63.8	24.9	11.3
	無所属	(694)	18.2	33.1	31.7	13.8	3.2	51.3	31.7	17.0

課外活動も、充実度に強く影響をしている。特に、サークルよりは部に所属していた回答者の充実度が高い。体育会に所属していた回答者の充実度は非常に高いことが読み取れる。

		n 数	非常に 充実 していた	やや充 実してい た	普通	あまり 充実して いなかった	全く充実 していな かった	充実 していた 計	普通	充実して いなかった 計
全体		(2878)	23.1	37.6	26.5	10.7	2.0	60.8	26.5	12.7
課外活動別	体育会系部活動	(425)	34.6	38.4	19.1	6.6	1.4	72.9	19.1	8.0
	文化系部活動	(402)	26.4	44.5	21.9	6.7	0.5	70.9	21.9	7.2
	体育会系サークル	(410)	27.1	37.1	27.3	7.3	1.2	64.1	27.3	8.5
	文化系サークル	(559)	20.8	41.3	27.2	9.7	1.1	62.1	27.2	10.7
	学外活動:アルバイト含	(992)	16.2	34.0	31.1	15.7	2.9	50.2	31.1	18.6
	その他	(90)	27.8	23.3	24.4	14.4	10.0	51.1	24.4	24.4

下記の検定からは、体育会に所属していたグループとその他を比較すると有意に差が生じていることがわかる。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会出身者とその他の比較(大学時代の充実度)

変 数	体育会系(1)	体育会系以外	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	424	2452		統計量:F 1.0839	統計量:t 6.4048	統計量:t 6.5893
平 均	2.021	2.357	0.336	自由度 1 423	自由度 2874	自由度 592.831
不偏分散	0.929	1.007		自由度 2 2451	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.964	1.003	0.040	P 値 0.2918	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

しかし、下記の検定に見られるように、体育会と文化系課外活動になると有意な差はない。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会と文化会(大学時代の充実度)

変 数	体育会(1)	文化会(3)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	424	401		統計量:F 1.1799	統計量:t 1.2543	統計量:t 1.2572
平 均	2.021	2.102	0.081	自由度 1 423	自由度 823	自由度 822.407
不偏分散	0.929	0.787		自由度 2 400	両側P値 0.2101	両側P値 0.2090
標本標準偏差	0.964	0.887	0.077	P 値 0.0943	片側P値 0.1050	片側P値 0.1045

下記の表を比較すると、体育会所属に限らず、正規の課外活動をしている学生は充実度が高いことがわかる。体育会とアルバイトを含む学外の活動との充実度には有意な差がある。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会と学外活動(アルバイト含む)(学生時代の充実度)

変 数	体育会(1)	学外(5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	424	991		統計量:F 1.1455	統計量:t 9.0413	統計量:t 9.2905
平 均	2.021	2.552	0.531	自由度 1 423	自由度 1413	自由度 851.798
不偏分散	0.929	1.064		自由度 2 990	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.964	1.031	0.068	P 値 0.1039	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

充実度に関しては、下記のように「その他」と回答した者は高くないが、後で見るように勉強に関しては熱心に勉強したグループとなっている。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会とその他(学生時代の充実度)

変 数	体育会(1)	その他(5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	424	89		統計量:F 1.7888	統計量:t 4.2328	統計量:t 3.5099
平 均	2.021	2.528	0.507	自由度 1 423	自由度 511	自由度 109.550
不偏分散	0.929	1.661		自由度 2 88	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0007 **
標本標準偏差	0.964	1.289	0.325	P 値 0.0002	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0003 **

次に、ゼミや研究室での活動状況について調査した。

あなたの大学のゼミや研究室活動について、あなたご自身の感覚を教えてください。

		回答数	%
全体		2184	100.0
1	熱心に勉強した	351	16.1
2	やや勉強した	731	33.5
3	普通	571	26.1
4	あまり勉強しなかった	436	20.0
5	全く勉強しなかった	95	4.3
6	勉強した計	1082	49.5
7	普通	571	26.1
8	勉強しなかった計	531	24.3

この質問に関しても、その後の所得との関係を見てみよう。1,000 万円以上の高額世帯収入と学生時代のゼミや研究室での活動状況を照合すると、熱心に勉強したという回答は、89 人（351 人中：約 25.4%）、やや勉強した 146 人（731 人中：約 20.0%）、普通 120 人（571 人中：約 21.0%）、あまり勉強しなかった 63 人（308 人中：約 20.5%）、全く勉強しなかった 15 人（57 人中：約 26.3%）という結果である。ゼミや研究室に所属していなかった者は、139 人（694 人中：約 20.0%）が高額世帯収入であった。この数字を見る限り、ゼミや研究室における勉強の程度と世帯収入はあまり関係がなさそうである。

しかし、ここでも偏差値が高いと回答した者は、低いと回答した者よりも勉強していることがわかる。入試の際の勉強習慣が身についているのか、一定の基礎学力が向学心には必要なのか、あるいは、偏差値の高い大学への入学が、学習意欲にプラスの影響を持つのか、その要因分析が必要である。すでに指摘したように、偏差値の高さと世帯収入の間には関係がある。ゼミや研究室での勉強の熱心度と世帯収入に直接的な関係が見られないとしても、勉強に対する態度と世帯年収は何らかの関わりがあると推論すべきであろう。

		n 数	熱心に した	やや した	普通	あまり しなかった	全く しなかった	した 計	普通	しなかった 計
全体		(2184)	16.1	33.5	26.1	20.0	4.3	49.5	26.1	24.3
大学 偏差 値別	高い計	(1006)	21.0	35.3	21.2	18.6	4.0	56.3	21.2	22.6
	普通	(886)	12.6	32.7	31.6	19.6	3.4	45.4	31.6	23.0
	低い計	(292)	9.6	29.5	26.7	25.7	8.6	39.0	26.7	34.2

熱心に勉強した人とやや勉強した人は、全員がゼミや研究室に所属していた。

課外活動に関しては「その他」への回答者が最も勉強しているグループとなった。

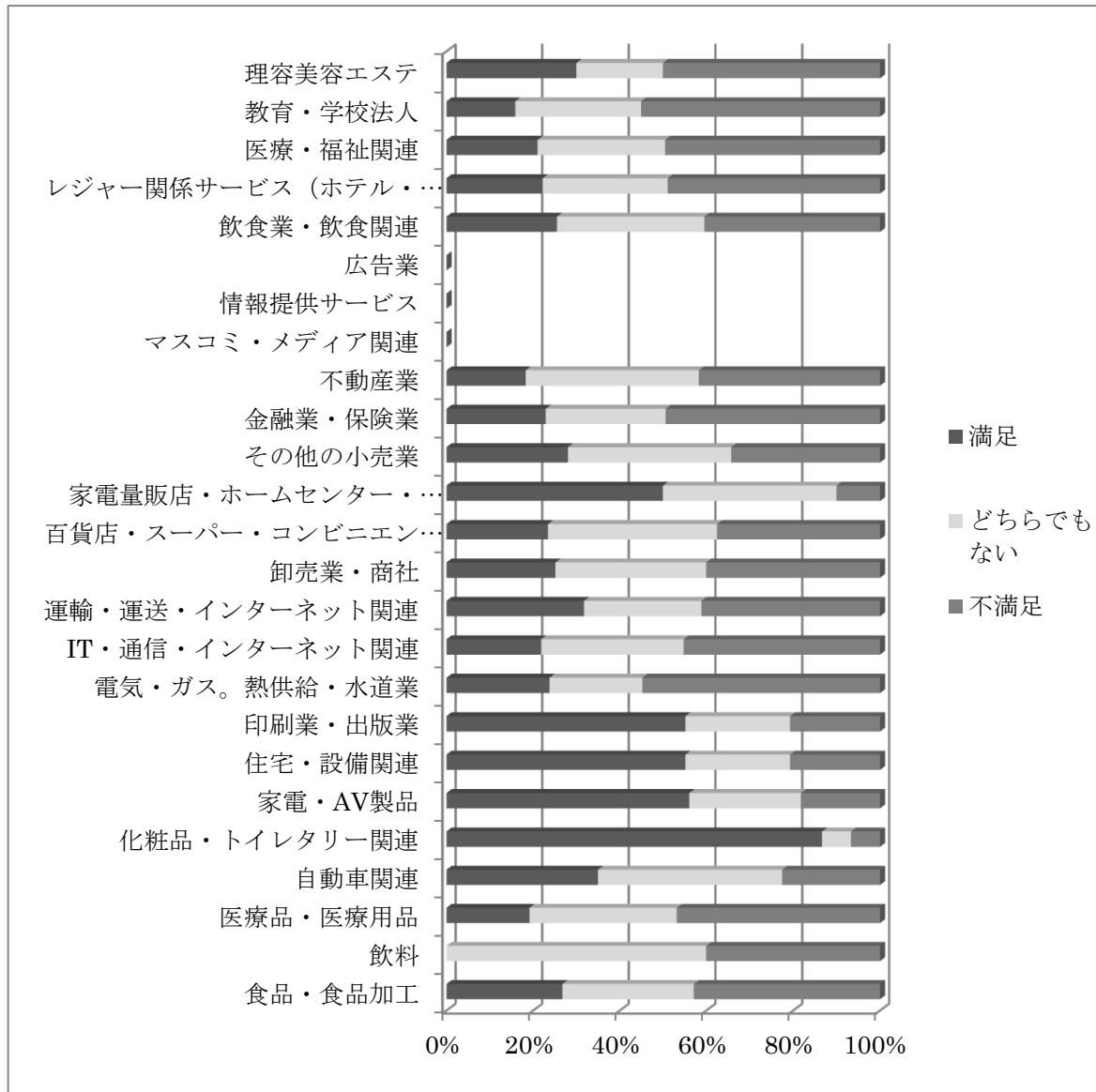
		n 数	熱心に した	やや した	普通	あまり しな かつた	全く しな かつた	した 計	普通	しな かつた計
全体		(2184)	16.1	33.5	26.1	20.0	4.3	49.5	26.1	24.3
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(316)	18.4	31.3	25.9	20.3	4.1	49.7	25.9	24.4
	文化系部活動	(330)	21.8	36.1	22.1	17.9	2.1	57.9	22.1	20.0
	体育会系サークル	(340)	13.5	33.2	29.1	18.8	5.3	46.8	29.1	24.1
	文化系サークル	(431)	15.8	36.7	26.2	17.9	3.5	52.4	26.2	21.3
	学外活動:アルバイト含	(712)	13.1	31.0	27.2	22.9	5.8	44.1	27.2	28.7
	その他	(55)	25.5	38.2	18.2	16.4	1.8	63.6	18.2	18.2

学外活動やアルバイトを熱心に行えば、勉強がおろそかになることは理解できる。体育会系より文化系の方が読書をするなど勉強の習慣が身につけていることも想像できる。「その他」という回答者は、一律ではないが、特に課外活動や学外活動をせず、研究室やゼミに所属しているグループと考えられる。あるいは、資格試験のための勉強かもしれない。サンプルは 55 人であり、その中で熱心に勉強したという回答は 14 名に過ぎない。グループとしては最も少ない。

熱心に勉強した人の学部・学科については以下のようになる。2878 サンプル中 351 人が熱心に勉強したと回答しているが、百分比で最も高いのは自然科学系で 26.1%、ついで医療・介護・健康・スポーツの 17.8%、芸術系 14.1%と続く。熱心に勉強する比率が少ないのは、家政・保育、服飾被服、その他の 5.6%、社会科学系 8.5%、医学系 8.9%の順である。

		回答数	熱心に 勉強した
全体		2878	351
1	人文科学系(文学、哲学、歴史、地理、教育、文化、考古学、文化人類学など)	602	71
2	芸術系(美術、音楽、デザイン、表現など)	149	21
3	語学・コミュニケーション系	182	17
4	社会科学系(法学、政治学、経済学、経営学、商学、社会学、観光学、国際関係学、情報学など)	965	82
5	自然科学系(物理学、生物学、化学、生命科学、数学、臨床心理学、農水産学など)	257	67
6	工学・技術系(機械、土木、通信、電子電気、音響、建築、システム工学など)	472	59
7	医学系(医科、歯科)	45	4
8	医療・介護・健康・スポーツ系(保健、衛生学、看護学、理学療法、薬学、栄養学、福祉、介護など)	152	27
9	家政、保育、服飾被服、その他	54	3

本調査の目的である就職活動の満足度についての調査は次の通りである。業種別に満足度を見ると次のようになる。



化粧品・トイレットリー関連業種の満足度が高く、不動産、教育・学校法人、医療品・医療用品、レジャー関係の業種の人気が低い。就職先業種の満足度を高めることができれば、個人の能力を育成することはできず、会社組織として、また業界として成長・発展することができない。これは業界の低迷につながることになる。

就職に関する満足度の質問は3つになる。

あなたが大学時代に行った就職活動の満足度について教えてください。※転職していない場合も、最初に就職が決まった時の満足度を回答ください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常に満足	238	8.3
2	やや満足	588	20.4
3	普通	1145	39.8
4	やや不満	597	20.7
5	きわめて不満	310	10.8
6	満足計	826	28.7
7	普通	1145	39.8
8	不満計	907	31.5

偏差値の高いグループは低いグループに比べて満足度は相対的に高い。特に、低いグループでは不満が多い。

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	8.3	20.4	39.8	20.7	10.8	28.7	39.8	31.5
大学偏差値別	高い計	(1289)	11.2	22.7	38.8	17.4	9.9	33.9	38.8	27.3
	普通	(1191)	6.0	19.9	42.1	22.7	9.4	25.9	42.1	32.1
	低い計	(398)	5.8	14.6	36.2	25.9	17.6	20.4	36.2	43.5

ゼミの所属に関しても所属しているグループの満足度が高い。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(大学時代の就活満足度)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)			
n	1288	397		統計量:F 1.0152	統計量:t 6.6739	統計量:t	6.7007		
平 均	2.922	3.348	0.426	自由度 1 396	自由度 1683	自由度	662.6516		
不偏分散	1.241	1.222		自由度 2 1287	両側P値 0.0000 **	両側P値	0.0000 **		
標本標準差	1.114	1.106	0.008	P 値 0.8638	片側P値 0.0000 **	片側P値	0.0000 **		

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	8.3	20.4	39.8	20.7	10.8	28.7	39.8	31.5
ゼミ	所属	(2184)	9.4	22.0	37.2	21.0	10.4	31.4	37.2	31.4
所属別	無所属	(694)	4.6	15.6	48.0	19.9	12.0	20.2	48.0	31.8

課外活動については、体育会、文化会、体育系サークル、文化系サークル、アルバイト等、その他という順位である。非常に満足という回答は、体育会が高く、次いで体育系サークルであった。先輩後輩の関係が就職活動に関係している可能性がある。

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	8.3	20.4	39.8	20.7	10.8	28.7	39.8	31.5
課外活動別	体育会系部活動	(425)	12.2	23.3	34.8	19.8	9.9	35.5	34.8	29.6
	文化系部活動	(402)	8.0	26.6	35.8	19.2	10.4	34.6	35.8	29.6
	体育会系サークル	(410)	10.0	23.9	36.1	20.0	10.0	33.9	36.1	30.0
	文化系サークル	(559)	7.2	20.2	44.2	19.3	9.1	27.4	44.2	28.4
	学外活動:アルバイト含	(992)	6.8	15.9	42.0	22.9	12.4	22.7	42.0	35.3
	その他	(90)	6.7	14.4	45.6	21.1	12.2	21.1	45.6	33.3

しかし、体育会と文化会や体育会サークルなどは統計的に有意な差ではない。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会と文化部(大学時代の就職活動の満足度)

変 数	体育会(1)	文化部(2)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	424	401		統計量:F	1.0983	統計量:t	0.7694	統計量:t	0.7704
平 均	2.917	2.978	0.060	自由度 1	423	自由度	823	自由度	822.9341
不偏分散	1.315	1.197		自由度 2	400	両側P値	0.4419	両側P値	0.4413
標本標準偏差	1.147	1.094	0.053	P 値	0.3428	片側P値	0.2209	片側P値	0.2206

対応のない2群の母平均の差の検定 部活動とサークル(就職活動の満足度)

変 数	部活動(1,2)	サークル(3,4)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	826	968		統計量:F	1.1126	統計量:t	1.0953	統計量:t	1.0907
平 均	2.946	3.002	0.057	自由度 1	825	自由度	1792	自由度	1715.060
不偏分散	1.256	1.129		自由度 2	967	両側P値	0.2735	両側P値	0.2756
標本標準偏差	1.121	1.063	0.058	P 値	0.1107	片側P値	0.1368	片側P値	0.1378

統計的には、以下のような部活動と学外およびその他の活動との間には有意な差があるが、体育会と文化部とは、有意な差が見られなかった。

対応のない2群の母平均の差の検定 部活と学外(アルバイト)その他(就職活動の満足度)

変 数	部活(1,2)	学外(5,6)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	826	1081		統計量:F 1.1253	統計量:t 4.6843	統計量:t 4.6475
平 均	2.946	3.180	0.235	自由度 1 825	自由度 1905	自由度 1719.975
不偏分散	1.256	1.117		自由度 2 1080	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	1.121	1.057	0.064	P 値 0.0700	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

充実度に関しても高い充実度のグループは高い満足度に繋がっている。

対応のない2群の母平均の差の検定 大学時代の充実度(最初の就職先の満足度)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	1748	847		統計量:F 1.1974	統計量:t 11.0299	統計量:t 11.3795
平 均	2.637	3.171	0.534	自由度 1 1747	自由度 2593	自由度 1816.3638
不偏分散	1.413	1.180		自由度 2 846	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	1.189	1.086	0.102	P 値 0.0027 **	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

あなたが最初に就職した就職先の満足度について教えてください。

	回答数	%
全体	2878	100.0
1 非常に満足	375	13.0
2 やや満足	831	28.9
3 普通	908	31.5
4 やや不満	470	16.3
5 きわめて不満	294	10.2
6 満足計	1206	41.9
7 普通	908	31.5
8 不満計	764	26.5

サンプルのおよそ 42%は最初の就職活動に関して満足している。不満と感じているのは約 27%である。このうち偏差値の高い大学は 49%が満足しており、これと対照的に低い偏差値のグループでは 30%弱しか満足できていない。不満も同様であり、高い偏差値のグループは約 23%なのに対し、低い偏差値のグループは約 38%が不満と感じている。

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	13.0	28.9	31.5	16.3	10.2	41.9	31.5	26.5
大学偏差値別	高い計	(1289)	16.6	32.6	27.3	14.9	8.6	49.2	27.3	23.5
	普通	(1191)	10.3	27.8	35.8	16.2	9.9	38.1	35.8	26.1
	低い計	(398)	9.5	20.1	32.7	21.4	16.3	29.6	32.7	37.7

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(最初の就職先の満足度)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	1288	397		統計量:F	1.0396	統計量:t	7.1136	統計量:t	7.0409
平 均	2.663	3.144	0.481	自由度 1	396	自由度	1683	自由度	648.105
不偏分散	1.372	1.426		自由度 2	1287	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	1.171	1.194	0.023	P 値	0.6217	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

この結果は、高い偏差値グループの人が、就職活動の準備を含めて十分に満足のいく就職活動を行い、低い偏差値のグループが準備不足で、就職活動をしつかりしなかったためなのか、あるいは、会社側の就職担当者の評価が、大学の偏差値により差別的な評価をしているのかはわからない。学歴偏重の社会構造であれば、偏差値の高低は就活の満足度の高低に関係するであろう。

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	13.0	28.9	31.5	16.3	10.2	41.9	31.5	26.5
ゼミ所属別	所属	(2184)	14.3	29.9	29.2	16.5	10.1	44.2	29.2	26.6
	無所属	(694)	8.9	25.8	38.9	15.9	10.5	34.7	38.9	26.4

ゼミの所属の有無は、満足については 10 ポイントの差になったが、不満という評価とは関係がなさそうである。しかし、ゼミが就活にもプラスの影響を及ぼしていることはわかる。

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	13.0	28.9	31.5	16.3	10.2	41.9	31.5	26.5
所属していた課外活動別	体育会系部活動	(425)	16.5	30.1	32.2	12.0	9.2	46.6	32.2	21.2
	文化系部活動	(402)	12.4	32.1	32.8	13.4	9.2	44.5	32.8	22.6
	体育会系サークル	(410)	17.3	31.0	27.6	14.6	9.5	48.3	27.6	24.1
	文化系サークル	(559)	10.6	29.2	32.2	20.2	7.9	39.7	32.2	28.1
	学外活動:アルバイト含	(992)	11.3	26.5	32.1	17.7	12.4	37.8	32.1	30.1
	その他	(90)	14.4	23.3	31.1	17.8	13.3	37.8	31.1	31.1

課外活動に関しても、体育サークルや体育会などのポイントが高く、文化系のサークル活動は、学外の活動やアルバイトなどと同じような満足を与えている。しかし、学生時代の就職活動と同じく、体育会と文化会やサークルとの間には有意な差はなく、正規の部活と学外活動やその他との間に有意な差が見られた。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会と文化会(最初の就職先の満足度)

変 数	体育会(1)	文化系(2)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	424	401		統計量:F	1.0661	統計量:t	0.9857	統計量:t	0.9866
平 均	2.672	2.751	0.078	自由度 1	423	自由度	823	自由度	822.5334
不偏分散	1.346	1.263		自由度 2	400	両側P値	0.3246	両側P値	0.3241
標本標準偏差	1.160	1.124	0.037	P 値	0.5171	片側P値	0.1623	片側P値	0.1621

対応のない2群の母平均の差の検定 部活とサークル(最初の就職先の満足度)

変 数	部活(1,2)	サークル(3,4)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	826	968		統計量:F	1.0055	統計量:t	1.3586	統計量:t	1.3589
平 均	2.709	2.783	0.074	自由度 1	825	自由度	1792	自由度	1749.339
不偏分散	1.305	1.312		自由度 2	967	両側P値	0.1744	両側P値	0.1743
標本標準偏差	1.142	1.145	0.003	P 値	0.9363	片側P値	0.0872	片側P値	0.0872

対応のない2群の母平均の差の検定 部活と学外(アルバイト)・その他(最初の就職先の満足度)

変 数	部活(1,2)	その他(5,6)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	826	1081		統計量:F	1.0718	統計量:t	4.1418	統計量:t	4.1610
平 均	2.709	2.932	0.223	自由度 1	825	自由度	1905	自由度	1804.89
不偏分散	1.305	1.398		自由度 2	1080	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	1.142	1.182	0.040	P 値	0.2913	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

あなたの現在の就職先(最初の就職先と同じでも)の満足度について教えてください。※転職していない場合でも、最初に就職が決まった時の満足度とその後の満足度を回答ください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常に満足	369	12.8
2	やや満足	896	31.1
3	普通	977	33.9
4	やや不満	420	14.6
5	きわめて不満	216	7.5
6	満足計	1265	44.0
7	普通	977	33.9
8	不満計	636	22.1

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	12.8	31.1	33.9	14.6	7.5	44.0	33.9	22.1
大学 偏差値別	高い計	(1289)	17.4	35.0	29.0	12.3	6.4	52.4	29.0	18.6
	普通	(1191)	9.9	28.5	39.1	14.9	7.5	38.5	39.1	22.4
	低い計	(398)	6.8	26.4	34.4	21.1	11.3	33.2	34.4	32.4

偏差値の高いグループは、低いグループに比較して現在の就職先企業の満足度が高い。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(現在の就職先の満足度)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	1288	398		統計量:F	1.0132	統計量:t	7.7079	統計量:t	7.7347
平 均	2.552	3.040	0.488	自由度 1	397	自由度	1684	自由度	664.418
不偏分散	1.223	1.207		自由度 2	1287	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	1.106	1.099	0.007	P 値	0.8831	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	12.8	31.1	33.9	14.6	7.5	44.0	33.9	22.1
ゼミ所属別	所属	(2184)	14.0	31.6	32.4	14.2	7.7	45.7	32.4	21.9
	無所属	(694)	9.1	29.5	38.8	15.7	6.9	38.6	38.8	22.6

最初の就職先と同様に、ゼミの所属の有無は、満足については 7 ポイント以上の差になったが、不満

足という評価とはあまり関係がなさそうである。

		n 数	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	きわめて不満	満足計	普通	不満計
全体		(2878)	12.8	31.1	33.9	14.6	7.5	44.0	33.9	22.1
課外活動別	体育会系部活動	(425)	15.8	33.2	32.5	13.2	5.4	48.9	32.5	18.6
	文化系部活動	(402)	11.9	34.1	33.8	13.7	6.5	46.0	33.8	20.1
	体育会系サークル	(410)	17.3	35.4	28.0	13.7	5.6	52.7	28.0	19.3
	文化系サークル	(559)	11.3	29.5	38.1	14.1	7.0	40.8	38.1	21.1
	学外活動: アルバイト含	(992)	10.8	28.5	35.2	16.1	9.4	39.3	35.2	25.5
	その他	(90)	14.4	27.8	28.9	15.6	13.3	42.2	28.9	28.9

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会と文化部(現在の就職先の満足度)

変 数	体育会(1)	文化部(2)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	424	401		統計量:F	1.0262	統計量:t	1.2657	統計量:t	1.2662
平 均	2.594	2.688	0.094	自由度 1	423	自由度	823	自由度	821.4881
不偏分散	1.149	1.120		自由度 2	400	両側P値	0.2060	両側P値	0.2058
標本標準偏差	1.072	1.058	0.014	P 値	0.7938	片側P値	0.1030	片側P値	0.1029

対応のない2群の母平均の差の検定 部活とサークル(現在の就職先の満足度)

変 数	部活(1,2)	サークル(3,4)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	825	969		統計量:F	1.0218	統計量:t	0.6301	統計量:t	0.6307
平 均	2.639	2.671	0.032	自由度 1	824	自由度	1792	自由度	1752.369
不偏分散	1.136	1.161		自由度 2	968	両側P値	0.5287	両側P値	0.5283
標本標準偏差	1.066	1.078	0.012	P 値	0.7491	片側P値	0.2644	片側P値	0.2642

対応のない2群の母平均の差の検定 部活と学外(アルバイト)・その他(現在の就職先の満足度)

変 数	部活(1,2)	学外・その他 (5,6)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	825	1081		統計量:F	1.1047	統計量:t	4.1120	統計量:t	4.1396
平 均	2.639	2.847	0.209	自由度 1	824	自由度	1904	自由度	1814.892
不偏分散	1.136	1.255		自由度 2	1080	両側P値	0.0000	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	1.066	1.120	0.054	P 値	0.1296	片側P値	0.0000	片側P値	0.0000 **

現在の就職先の満足度を見る限り、偏差値の違いは有意な差を示しているが、部活動間の相違やサークルとの違いは有意な差にならない。しかし、部活動と学外活動、その他のグループとは有意な差となった。

		全体	300万円未満	300万円～400万円未満	400万円～500万円未満	500万円～600万円未満	600万円～700万円未満	700万円～800万円未満	800万円～900万円未満	900万円～1000万円未満	1000万円～1200万円未満	1200万円～1500万円未満	1500万円以上
現職に満足か	満足・やや満足	1265	6.2	12.9	10.2	11.9	8.0	8.8	9.3	7.7	9.6	8.0	9.2
	不満足・やや不満	636	33.0	17.9	14.5	12.9	9.4	9.4	3.5	6.1	3.8	2.5	3.0

所得と職業の満足度にはバラツキがあるが、不満足ของกลุ่มと世帯収入の関係は負の相関がある。

		n 数	非常に満足 やや満足	普通	やや不満 きわめて不満
全体		(2878)	28.7	39.8	31.5
大学時代の成績	良い計(非常に良い+やや良い)	(1235)	50.0	28.8	21.1
	普通	(1213)	28.2	60.2	11.6
	悪い計 (やや悪い+悪い)	(430)	39.0	32.6	28.4

大学時代に成績が良かったグループは、現職の満足度が高い傾向にある。

		n 数	非常に満足 やや満足	普通	やや不満 きわめて不満
全体		(2878)	44.0	34.0	22.0
大学時代の充実度	充実計(非常に充実+やや充実)	(1749)	73.0	18.9	8
	普通	(764)	25.1	55.1	19.8
	充実してない計(やや充実してない+充実してない)	(365)	51.3	26.0	22.8

大学時代の充実度が高いグループは現職に関する満足度も高い。所属や活動の種類というよりは、充実したか否かが就職活動の満足度に繋がっているように思える。これは重要な関係を示唆していると思われる。

対応のない2群の母平均の差の検定 大学時代の充実度(現在の就職先の満足度)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	1748	364		統計量:F 1.2822	統計量:t 13.2401	統計量:t 14.3606
平 均	2.868	3.709	0.840	自由度 1 1747	自由度 2110	自由度 574.2109
不偏分散	1.261	0.984		自由度 2 363	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	1.123	0.992	0.131	P 値 0.0032 **	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

あなたは同僚と比べて出世は早いですか。それとも遅いですか。以下の中からあなたにあてはまるものを教えてください。

	回答数	%
全体	2878	100.0
1 非常に早い	99	3.4
2 やや早い	424	14.7
3 普通	1574	54.7
4 やや遅い	377	13.1
5 とても遅い	404	14.0
6 早い計	523	18.2
7 普通	1574	54.7
8 遅い計	781	27.1

		n 数	非常に 早い	やや 早い	普通	やや 遅い	とても 遅い	早い計	普通	遅い計
全体		(2878)	3.4	14.7	54.7	13.1	14.0	18.2	54.7	27.1
大学 偏差値別	高い計	(1289)	5.0	19.5	52.8	11.6	11.2	24.4	52.8	22.7
	普通	(1191)	2.0	12.2	58.9	13.0	13.9	14.2	58.9	26.9
	低い計	(398)	2.8	7.0	48.0	18.3	23.9	9.8	48.0	42.2

大学の偏差値の高さは、出世の速さに関係がありそうである。しかし、偏差値の高い大学に合格する努力家が、社会人になっても継続的に努力をしているという解釈も可能である。偏差値の高い 2 グループと低い 2 グループの出世比較をすると以下ようになる。

対応のない2群の母平均の差の検定 大学の偏差値(出世の速さ)

変数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welchの方法)
n	1288	397		統計量:F 1.0858	統計量:t 8.6731	統計量:t 8.4864
平均	3.045	3.537	0.491	自由度 1 1287	自由度 1683	自由度 636.951
不偏分散	0.955	1.037		自由度 2 396	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.977	1.018	0.041	P 値 0.3012	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

出世の速さは、偏差値の高いグループが速いことがわかる。偏差値の非常に高いグループと最も低いグループの出世比較では、以下のようにさらに明確になる。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の非常に高い人と最も低い人(出世の速さ)

変数	非常に高い(1)	最も低い(5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welchの方法)
n	343	113		統計量:F 1.0381	統計量:t 6.2554	統計量:t 6.1966
平均	2.956	3.664	0.707	自由度 1 342	自由度 454	自由度 188.163
不偏分散	1.077	1.118		自由度 2 112	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	1.038	1.057	0.020	P 値 0.7877	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

		n 数	非常に 早い	やや 早い	普通	やや 遅い	とても 遅い	早い計	普通	遅い計
全体		(2878)	3.4	14.7	54.7	13.1	14.0	18.2	54.7	27.1
ゼミ所属別	所属	(2184)	3.5	15.1	54.4	13.5	13.5	18.6	54.4	27.0
	無所属	(694)	3.2	13.5	55.6	11.8	15.9	16.7	55.6	27.7

ゼミの所属の有無と出世のスピードは必ずしも明瞭ではない。

		n 数	非常に 早い	やや 早い	普通	やや 遅い	とても 遅い	早い計	普通	遅い計
全体		(2878)	3.4	14.7	54.7	13.1	14.0	18.2	54.7	27.1
課外活動別	体育会系部活動	(425)	6.8	18.4	52.7	14.1	8.0	25.2	52.7	22.1
	文化系部活動	(402)	3.5	15.7	56.0	10.7	14.2	19.2	56.0	24.9
	体育会系サークル	(410)	4.1	16.8	54.6	13.9	10.5	21.0	54.6	24.4
	文化系サークル	(559)	2.1	12.3	57.1	12.7	15.7	14.5	57.1	28.4
	学外活動:アルバイト含	(992)	2.2	13.8	53.7	13.7	16.5	16.0	53.7	30.2
	その他	(90)	5.6	8.9	54.4	11.1	20.0	14.4	54.4	31.1

下記に見るように、体育会に所属していた者は、出世のスピードが速い傾向にある。体育会と文化系部活や文化系サークルに比較して体育会系は出世が速い傾向にある。組織が人間関係により成り立っているとすれば、体育会の活動は人間形成を育成するうえで重要であり、リーダーシップ教育にもかかわりを持つと考えるべきであろう。出世の速さは、こうした体育会活動と大きく関係していると考えべきである。

「その他」と回答した者の出世は遅い傾向にある。しかし、「その他」のグループの職業によっては、出世するか否かの問題は重要である。資格取得による業務などは、個人事業のような性格であり、出世とは無縁である。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会と文化部(出世の速さ)

変数	体育会(1)	文化部(2)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welchの方法)	
n	424	401		統計量:F	1.0284	統計量:t	2.7246	統計量:t	2.7235
平均	2.981	3.165	0.183	自由度 1	423	自由度	823	自由度	819.0031
不偏分散	0.922	0.948		自由度 2	400	両側P値	0.0066 **	両側P値	0.0066 **
標本標準偏差	0.960	0.974	0.014	P 値	0.7755	片側P値	0.0033 **	片側P値	0.0033 **

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会と体育系サークル(出世の速さ)

変数	体育会(1)	体育系サークル(3)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welchの方法)	
n	424	409		統計量:F	1.0490	統計量:t	1.6995	統計量:t	1.7003
平均	2.981	3.093	0.112	自由度 1	423	自由度	831	自由度	830.8772
不偏分散	0.922	0.879		自由度 2	408	両側P値	0.0896	両側P値	0.0895
標本標準偏差	0.960	0.937	0.023	P 値	0.6268	片側P値	0.0448 *	片側P値	0.0447 *

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会部活とサークル系文化部(出世の速さ)

変数	体育会部活(1)	サークル系文化部(4)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welchの方法)	
n	424	558		統計量:F	1.0379	統計量:t	4.7590	統計量:t	4.7469
平均	2.981	3.272	0.291	自由度 1	423	自由度	980	自由度	901.9510
不偏分散	0.922	0.888		自由度 2	557	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	0.960	0.942	0.018	P 値	0.6801	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会と学外(アルバイト)(出世の速さ)

変数	体育会(1)	学外(5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welchの方法)	
n	424	991		統計量:F	1.0229	統計量:t	5.3854	統計量:t	5.4099
平均	2.981	3.284	0.302	自由度 1	423	自由度	1413	自由度	808.1401
不偏分散	0.922	0.943		自由度 2	990	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	0.960	0.971	0.011	P 値	0.7915	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会とその他(出世の速さ)

変数	体育会(1)	その他(6)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welchの方法)
n	424	89		統計量:F 1.2133	統計量:t 2.7288	統計量:t 2.5618
平均	2.981	3.292	0.311	自由度 1 423	自由度 511	自由度 120.3327
不偏分散	0.922	1.118		自由度 2 88	両側P値 0.0066 **	両側P値 0.0116 *
標本標準偏差	0.960	1.057	0.097	P 値 0.2201	片側P値 0.0033 **	片側P値 0.0058 **

大学時代の充実度の高いグループは出世も速いという傾向にある。学生時代に充実した学生生活を送るかは、その後の社会人生活において重要な要素になるということがわかる。

対応のない2群の母平均の差の検定 充実度の高いグループと低いグループ(出世の速さ)

変数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welchの方法)
n	1748	847		統計量:F 1.0097	統計量:t 9.3287	統計量:t 9.3131
平均	3.080	3.456	0.376	自由度 1 1747	自由度 2593	自由度 1666.9549
不偏分散	0.925	0.934		自由度 2 846	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.962	0.966	0.005	P 値 0.8657	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

あなたは大学卒業後、現在に至るまでに社外で勉強した経験がありますか。(現在勉強している人も含みます。)

	回答数	%
全体	2878	100.0
1 現在、勉強している	421	14.6
2 現在、勉強しており、他にも勉強したい	558	19.4
3 現在、勉強していないが、過去には勉強していた	994	34.5
4 大学卒業後は、勉強していない	905	31.4

		n 数	現在、勉強している	現在、勉強しており、 他にも勉強したい	現在、勉強していない が、過去には勉強して いた	大学卒業後は、 勉強していない
全体		(2878)	14.6	19.4	34.5	31.4
大学 偏差値別	高い計	(1289)	18.3	21.0	34.4	26.3
	普通	(1191)	11.7	19.7	34.5	34.1
	低い計	(398)	11.6	13.1	35.2	40.2

出身大学の偏差値が高い者は、卒業後も勉強を継続する傾向にある。このことは、先の出世のスピードにも関係している。偏差値の高い大学に入学した者は、勉強の習慣が身についているため、環境が変化した際の対応能力も高いと考えることができよう。

		n 数	現在、勉強している	現在、勉強しており、 他にも勉強したい	現在、勉強していない が、過去には勉強して いた	大学卒業後は、 勉強していない
全体		(2878)	14.6	19.4	34.5	31.4
ゼミ所属別	所属	(2184)	14.9	20.3	34.8	30.0
	無所属	(694)	13.7	16.6	33.9	35.9

ゼミの所属の有無と卒業後の勉強の姿勢は、多少関係しているようである。卒業後に勉強していないという回答は、ゼミに所属していた者は 30 ポイントであり、無所属はこれより 5.9 ポイントも高くなっている。また、現在進行形の者や意欲を見ると、ここでは所属していた者が合計 35.2 ポイント、無所属は 30.3 ポイントで、ゼミに所属していた者が 5 ポイとほど高い割合である。

		n 数	現在、勉強している	現在、勉強してお り、他にも勉強した い	現在、勉強していな いが、過去には勉強 していた	大学卒業後は、 勉強していない
全体		(2878)	14.6	19.4	34.5	31.4
課外活動別	体育会系部活動	(425)	20.2	21.9	29.6	28.2
	文化系部活動	(402)	14.9	23.9	35.8	25.4
	体育会系サークル	(410)	14.9	20.2	34.1	30.7
	文化系サークル	(559)	15.2	20.4	34.9	29.5
	学外活動:アルバイト含	(992)	12.0	16.0	35.8	36.2
	その他	(90)	11.1	14.4	37.8	36.7

課外活動の所属については、体育会系課外活動に所属していた者が、最も勉強している。これは文化系課外活動やサークルよりも高い値になっていることは意外である。出世のスピードが速いのは、この勉強に取り組み姿勢であろうか。

大学時代の充実度は、以下のように勉強の経験にも関係している。

対応のない2群の母平均の差の検定 充実度の高いグループと低いグループ(勉強経験)

変 数	充実度 高い(1,2)	充実度 低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)			
n	1748	364		統計量:F 1.0096	統計量:t 5.1446	統計量:t	5.1607		
平 均	2.713	3.022	0.309	自由度 1 1747	自由度 2110	自由度	526.8389		
不偏分散	1.090	1.079		自由度 2 363	両側P値 0.0000 **	両側P値	0.0000 **		
標本標準偏差	1.044	1.039	0.005	P 値 0.9210	片側P値 0.0000 **	片側P値	0.0000 **		

充実度が高かったグループは、卒業後も社外で勉強するなどの経験を有している。

あなたは大学卒業後、現在および過去にどのような勉強をしていますか。

		回答数	%
全体		1973	100.0
1	外国語(会話)の教室などに通う	436	22.1
2	簿記、宅建などの資格試験を目指して専門学校や通信教育を利用する	495	25.1
3	ビジネススクール(MBA など)に通う	74	3.8
4	自然科学系の大学院に通う	37	1.9
5	会計専門職の大学院に通う	12	0.6
6	ロースクールに通う	15	0.8
7	その他の専門職大学院に通う	50	2.5
8	学校などに通わずに勉強する	754	38.2
9	その他	100	5.1

簿記や宅建などの資格試験対は、専門学校などで勉強する傾向が高く、外国語の人気も高い。しかし、自宅で勉強する人の割合が最も高く、仕事をしながら勉強するため、時間的拘束が大きいと推測できる。

		n 数	外国語など	簿記、宅建など	MBA など	自然科学系の 大学院	会計専門職	ロースクール	その他専門職 大学院	学校以外で勉強	その他
全体		(1973)	22.1	25.1	3.8	1.9	0.6	0.8	2.5	38.2	5.1
大学偏差値別	高い計	(950)	25.1	25.1	3.5	2.6	0.6	1.2	2.7	34.5	4.7
	普通	(785)	20.3	25.1	3.9	1.3	0.5	0.4	2.0	41.1	5.4
	低い計	(238)	16.4	25.2	4.2	0.8	0.8	0.4	3.4	43.3	5.5

		n 数	外国語など	簿記、宅建など	MBA など	自然科学系の 大学院	会計専門職	ロースクール	その他専門職 大学院	学校以外で勉強	その他
全体		(1973)	22.1	25.1	3.8	1.9	0.6	0.8	2.5	38.2	5.1
ゼミ所属別	所属	(1528)	21.9	25.7	4.0	2.1	0.6	0.7	2.6	37.4	5.0
	無所属	(445)	22.9	22.9	2.9	1.1	0.7	1.1	2.2	40.9	5.2

		n 数	外国語など	簿記、宅建など	MBA など	自然科学系の 大学院	会計専門職	ロースクール	その他専門職 大学院	学校以外で勉強	その他
全体		(1973)	22.1	25.1	3.8	1.9	0.6	0.8	2.5	38.2	5.1
課外活動別	体育会系部活動	(305)	28.5	20.7	4.3	2.6	0.7	—	1.3	36.4	5.6
	文化系部活動	(300)	24.7	23.0	4.7	2.3	0.3	0.7	3.3	34.0	7.0
	体育会系サークル	(284)	25.7	24.6	4.9	0.4	1.1	1.8	2.5	35.6	3.5
	文化系サークル	(394)	18.5	25.6	4.1	2.0	0.5	0.8	3.8	40.9	3.8
	学外活動:アルバイト含	(633)	19.3	28.4	2.5	2.1	0.6	0.6	2.1	40.1	4.3
	その他	(57)	12.3	21.1	1.8	—	—	1.8	1.8	43.9	17.5

偏差値別では、語学が偏差値の高い大学出身者が多く、自宅などの学習は偏差値の低いグループが多い。ゼミの所属については、特に顕著な違いは発見できない。課外活動では体育会系部活動のグループが語学で多少高く、「その他」が最も低い。「その他」は、学校以外での勉強とその他の勉強で最も高い値となっている。

あなたは大学卒業後、社外で勉強したいという希望はどの程度ありますか。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常にある	663	23.0
2	ややある	1166	40.5
3	どちらともいえない	626	21.8
4	あまりない	283	9.8
5	全くない	140	4.9
6	ある計	1829	63.6
7	ない計	423	14.7

大学卒業後の勉強意欲は非常に高い。日本の社会人の質の高さは勤勉な学習態度にあると考えられる。社内の研修とは異なり、社外で勉強することで視野を広げたいということであろうか。

1,000 万円以上の高額世帯収入と学習意欲を照合すると、非常にあるという回答は、134 人（663 人中：約 20.0%）、ややある 225 人（1166 人中：約 19.3%）、どちらともいえない 127 人（626 人中：約 20.3%）、あまりない人 59（283 人中：約 20.8%）、全くない 27 人（140 人中：約 19.3%）という結果である。この数字を見る限り、学習意欲と世帯収入には直接的な関係はないように思える。

		n 数	非常に ある	ややある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある 計	ない計
全体		(2878)	23.0	40.5	21.8	9.8	4.9	63.6	14.7
大学 偏差値別	高い計	(1289)	28.0	42.7	16.1	9.2	4.0	70.8	13.2
	普通	(1191)	18.8	39.9	26.4	9.9	5.0	58.7	14.9
	低い計	(398)	19.6	35.2	26.1	11.6	7.5	54.8	19.1

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(勉強意欲)

変 数	偏差値 高い(1,2)	偏差値 低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)			
n	1288	398		統計量:F 1.1668	統計量:t 5.4791	統計量:t 5.2607			
平 均	2.184	2.525	0.341	自由度 1 397	自由度 1684	自由度 621.679			
不偏分散	1.134	1.323		自由度 2 1287	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **			
標本標準偏差	1.065	1.150	0.085	P 値 0.0525	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **			

偏差値の高低による分類では、推察されるように偏差値の高いグループの継続的な勉強意欲が高いことを示している。

		n 数	非常に ある	ややある	どちらとも いえない	あまり ない	全く ない	ある計	ない計
全体		(2878)	23.0	40.5	21.8	9.8	4.9	63.6	14.7
ゼミ所属別	所属	(2184)	23.7	41.8	20.7	9.6	4.3	65.4	13.9
	無所属	(694)	21.0	36.6	25.2	10.7	6.5	57.6	17.1

ゼミの所属の有無も、同様の傾向を示している。

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全く ない	ある計	ない計
全体		(2878)	23.0	40.5	21.8	9.8	4.9	63.6	14.7
課外活動別	体育会系部活動	(425)	26.4	37.2	23.8	7.8	4.9	63.5	12.7
	文化系部活動	(402)	24.9	44.5	16.9	10.7	3.0	69.4	13.7
	体育会系サークル	(410)	19.8	43.4	22.7	10.0	4.1	63.2	14.1
	文化系サークル	(559)	22.2	43.8	19.3	10.2	4.5	66.0	14.7
	学外活動:アルバイト含	(992)	22.1	37.7	24.6	10.3	5.3	59.8	15.6
	その他	(90)	30.0	35.6	13.3	7.8	13.3	65.6	21.1

課外活動に関しては、「その他」高い勉強意欲を示している一方、最も勉強意欲がないのも「その他」のグループであった。

以下のように、大学時代の充実度は卒業後の勉強の意欲にも関係する。学生時代の充実度の高さは非常に重要である。

対応のない2群の母平均の差の検定 充実度の高いグループと低いグループ(勉強意欲)

変 数	充実度 高い(1,2)	充実度 低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	1748	364		統計量:F 1.4005	統計量:t 5.1819	統計量:t 4.6429
平 均	2.173	2.492	0.319	自由度 1 1747	自由度 2110	自由度 476.7793
不偏分散	1.068	1.496		自由度 2 363	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	1.033	1.223	0.190	P 値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

あなたはどのような勉強に興味がありますか。【あてはまるもの(いくつでも)】を、それぞれお答えください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	外国語(会話)の教室などに通う	1521	52.8
2	簿記、宅建などの資格試験を目指して専門学校や通信教育を利用する	1054	36.6
3	ビジネススクール(MBA など)に通う	480	16.7
4	自然科学系の大学院に通う	272	9.5
5	会計専門職の大学院に通う	232	8.1
6	ロースクールに通う	205	7.1
7	その他の専門職大学院に通う	302	10.5
8	学校などに通わずに勉強する	1056	36.7
9	その他	222	7.7
10	あてはまるものはない	464	16.1

グローバル化が叫ばれている中で語学教室の人気は高いようである。しかし、その他の資格試験のための学校や MBA などにも高いニーズがある。

		n 数	外国語など	簿記、宅建など	MBA など	自然科学系の大学院	会計専門職	ロースクール	その他専門職大学院	学校以外で勉強	その他	あてはまらない
全体		(2878)	52.8	36.6	16.7	9.5	8.1	7.1	10.5	36.7	7.7	16.1
大学 偏差値別	高い計	(1289)	58.1	36.9	19.7	11.2	9.6	9.0	11.3	38.9	8.5	11.9
	普通	(1191)	49.3	36.4	14.4	7.2	6.3	5.5	8.6	34.8	7.0	19.2
	低い計	(398)	46.5	36.2	13.6	10.6	8.3	5.8	13.3	35.2	7.3	20.4

先と同じ傾向であるが、偏差値の高いグループで外国語系の勉強を希望する割合が高い。外国語に興味のある人間や外国語が得意な人間が高い偏差値の大学に入れたという可能性が残る。これは、別の調査でも明らかになった点である。

あなたはどのような勉強に興味がありますか。【最もあてはまるもの(ひとつだけ)】を、それぞれお答えください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	外国語(会話)の教室などに通う	782	27.2
2	簿記、宅建などの資格試験を目指して専門学校や通信教育を利用する	487	16.9
3	ビジネススクール(MBA など)に通う	133	4.6
4	自然科学系の大学院に通う	90	3.1
5	会計専門職の大学院に通う	48	1.7
6	ロースクールに通う	54	1.9
7	その他の専門職大学院に通う	88	3.1
8	学校などに通わずに勉強する	617	21.4
9	その他	115	4.0
10	あてはまるものはない	464	16.1

		n 数	外国語など	簿記、宅建など	MBA など	自然科学系の大学院	会計専門職	ロースクール	その他専門職大学院	学校以外で勉強	その他	あてはまらない
全体		(2878)	27.2	16.9	4.6	3.1	1.7	1.9	3.1	21.4	4.0	16.1
大学 偏差値別	高い計	(1289)	29.5	16.1	5.7	3.1	2.1	2.0	3.0	22.0	4.5	11.9
	普通	(1191)	25.3	18.1	3.7	3.4	1.4	1.7	2.5	20.8	3.9	19.2
	低い計	(398)	25.4	16.1	3.8	2.5	1.0	2.0	4.8	21.4	2.8	20.4

		n 数	外国語など	簿記、宅建など	MBA など	自然科学系の大学院	会計専門職	ロースクール	その他専門職大学院	学校以外で勉強	その他	あてはまらない
全体		(2878)	27.2	16.9	4.6	3.1	1.7	1.9	3.1	21.4	4.0	16.1
ゼミ所属別	所属	(2184)	27.0	17.7	4.9	3.2	1.6	2.2	3.3	21.2	4.0	14.9
	無所属	(694)	27.7	14.4	3.7	3.0	1.7	1.0	2.4	22.2	3.9	19.9

		n 数	外国語など	簿記、宅建など	MBA など	自然科学系の大学院	会計専門職	ロースクール	その他専門職大学院	学校以外で勉強	その他	あてはまらない
全体		(2878)	27.2	16.9	4.6	3.1	1.7	1.9	3.1	21.4	4.0	16.1
課外活動別	体育会系部活動	(425)	28.7	14.8	6.1	4.0	3.1	1.9	2.6	19.3	4.9	14.6
	文化系部活動	(402)	25.6	16.9	6.2	3.2	1.0	1.5	4.7	22.4	3.2	15.2
	体育会系サークル	(410)	32.4	17.6	5.4	2.2	1.2	2.7	1.5	18.3	3.2	15.6
	文化系サークル	(559)	28.1	18.1	3.6	2.5	1.3	1.8	2.9	23.3	4.3	14.3
	学外活動:アルバイト含	(992)	25.0	17.2	3.8	3.2	1.8	1.5	3.4	22.1	3.9	17.9
	その他	(90)	21.1	13.3	2.2	5.6	1.1	4.4	2.2	23.3	5.6	21.1

外国語の学習意欲が高いのは、英語社内公用語などが影響しているのかもしれない。また、資格試験については、自らのキャリアデザインに対する不安を反映しているのであろう。学校に通わず勉強するというのは、通信教育や放送大学、その他自宅で教養を身につけるような読書などが含まれているの

かもしれない。「その他」の他に「あてはまるものがない」という項目への回答が意外に多かった。

次の転職に関する質問である。転職の経験者は意外に多く、60.5%になった。

あなたは今までに転職されたことはありますか。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	ある	1741	60.5
2	ない	1137	39.5

		n 数	ある	ない
全体		(2878)	60.5	39.5
大学偏差値別	高い計	(1289)	59.9	40.1
	普通	(1191)	59.9	40.1
	低い計	(398)	64.1	35.9

		n 数	ある	ない
全体		(2878)	60.5	39.5
ゼミ所属別	所属	(2184)	59.8	40.2
	無所属	(694)	62.8	37.2

		n 数	ある	ない
全体		(2878)	60.5	39.5
課外活動別	体育会系部活動	(425)	56.5	43.5
	文化系部活動	(402)	63.2	36.8
	体育会系サークル	(410)	54.6	45.4
	文化系サークル	(559)	64.0	36.0
	学外活動: アルバイト含	(992)	61.5	38.5
	その他	(90)	61.1	38.9

今までに転職された回数を教えてください。

		回答数	%
全体		1741	100.0
1	1 回	632	36.3
2	2 回	455	26.1
3	3 回	328	18.8
4	4 回	121	7.0
5	5 回以上	205	11.8

この質問に対する回答で、半数以上が転職経験を持ち、その転職回数が多いことに驚かされる。2878人のうち転職経験者が1741人であるが、全サンプルを平均して（転職なしを0とする）、1.40回の転職を経験している。派遣・契約社員の転職経験が高いことは想定できるため、これを除いたサンプルでは、1.27回となった。1回以上の転職は平均的な姿であり、常識的ということになる。

転職者では、会社役員の転職者が91人で、平均1.93回、会社員の転職者が2,054人で平均1.11人、派遣・契約社員が299人で平均2.51人、自営業が245人で平均1.93人、自由業は190人で平均1.84人となった。会社員の転職が最も少ないが、それでも1回以上なの転職をしているのである。

ちなみに、5回以上というのは、会社役員が11人、会社員が82人、派遣・契約社員が67人である。

	n 数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上	転職した%
全体	2878	1137	632	455	328	121	205	
人文科学系	602	211	114	106	82	30	59	64.95
芸術系	149	46	34	26	20	7	16	69.13
語学・コミュニケーション系	182	54	39	31	26	8	24	70.33
社会科学系	965	356	231	154	113	43	68	63.11
自然科学系	257	133	45	31	28	9	11	48.25
工学・技術系	472	225	117	70	35	12	13	52.33
医学系(医科、歯科)	45	25	10	5	2	2	1	44.44
医療・介護・健康・スポーツ系	152	61	38	23	16	7	7	59.87
家政、保育、服飾被服、その他	54	26	4	9	6	3	6	51.85

所属学部・学科との関係でみると、4回以上転職する割合は、人文科学系が14.8%、芸術系が15.4%、語学・コミュニケーション系が18.1%、社会科学系が11.5%、自然科学系が7.8%、工学系が5.3%、医学系6.7%、医療・介護・健康・スポーツ系が9.2%、家政・保育・服飾、その他が16.7%になっている。転職回数は、組織に知財を取り込めないことを意味する一方で、労働市場の流動化が進んでいる領域とも捉えられる。重要な知識や技術を組織に囲い込むためには転職を防止させねばならないが、組織に特有の知識や技術の場合には、汎用性がないために、従業員は組織を離れることができなくなる。

世帯収入との関係でみると、転職していないグループは、平均して5.76（5が600万円から700万円、6が700万円から800万円）、転職1回が5.248、転職2回5.09、転職3回が4.89（4は500万円から600万円）、転職4回が4.58、転職5回以上が3.99（3は400万円から500万円）という回答平均値になった。すなわち、転職回数が増えるに従って平均値が小さくなっており、転職回数が多いのは世帯収入と負の相関があることになる。転職が増えるにしたがって世帯収入が減るということではなく、現在の所得に不満があるために転職するということもあろう。あるいは、転職回数の多い人々の雇用機会が、限界的な企業に限られているという想定も可能である。

		n 数	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上
全体		(1741)	36.3	26.1	18.8	7.0	11.8
大学偏差値別	高い計	(772)	36.3	27.8	18.5	7.6	9.7
	普通	(714)	37.1	24.2	19.9	6.0	12.7
	低い計	(255)	34.1	26.3	16.9	7.5	15.3

偏差値の高低に関わらず転職者は多いが、4回までは偏差値の高いグループが低いグループよりも上回っていることは予想外である。また、5回以上の転職経験者になると、初めて偏差値の低いグループが多くなる。

偏差値の非常に高いグループと低いグループでは、転職の回数が有意に異なる。偏差値の非常に高いグループは、最初の就活段階で優良企業に就職する可能性が高いため、転職の必要性が少ないと考えられる。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の非常に高いグループ低いグループ(転職の回数)

変 数	非常に高い(1)	低い(5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	343	113		統計量:F	1.8060	統計量:t	4.6721	統計量:t	4.0363
平 均	1.140	1.912	0.772	自由度 1	112	自由度	454	自由度	154.900
不偏分散	1.934	3.492		自由度 2	342	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0001 **
標本標準偏差	1.391	1.869	0.478	P 値	0.0001	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

		n 数	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上
全体		(1741)	36.3	26.1	18.8	7.0	11.8
ゼミ所属別	所属	(1305)	38.8	25.5	18.3	6.6	10.8
	無所属	(436)	28.9	28.0	20.4	8.0	14.7

		n 数	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上
全体		(1741)	36.3	26.1	18.8	7.0	11.8
課外活動別	体育会系部活動	(240)	39.2	22.1	22.5	9.6	6.7
	文化系部活動	(254)	35.8	21.7	18.1	8.3	16.1
	体育会系サークル	(224)	40.2	27.7	16.5	5.4	10.3
	文化系サークル	(358)	33.8	29.6	17.9	7.3	11.5
	学外活動:アルバイト含	(610)	35.6	27.2	19.2	6.2	11.8
	その他	(55)	34.5	23.6	18.2	1.8	21.8

あなたは現在、転職希望はどの程度ありますか。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常にある	472	16.4
2	ややある	723	25.1
3	どちらともいえない	631	21.9
4	あまりない	506	17.6
5	全くない	546	19.0
6	ある計	1195	41.5
7	ない計	1052	36.6

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	16.4	25.1	21.9	17.6	19.0	41.5	36.6
大学 偏差値別	高い計	(1289)	15.9	25.6	20.4	17.7	20.4	41.5	38.1
	普通	(1191)	15.3	24.8	23.3	17.9	18.7	40.1	36.6
	低い計	(398)	21.4	24.6	22.6	16.3	15.1	46.0	31.4

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(転職希望)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	1289	398		統計量:F	1.0332	統計量:t	2.7173	統計量:t	2.7409
平 均	3.009	2.796	0.213	自由度 1	1287	自由度	1683	自由度	667.54
不偏分散	1.885	1.824		自由度 2	396	両側P値	0.0066 **	両側P値	0.0063 **
標本標準偏差	1.373	1.351	0.022	P 値	0.6997	片側P値	0.0033 **	片側P値	0.0031 **

偏差値の高いグループと低いグループを比較すると、低いグループに転職希望が多い。

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	16.4	25.1	21.9	17.6	19.0	41.5	36.6
ゼミ所属別	所属	(2184)	17.2	24.8	21.6	17.6	18.8	42.0	36.4
	無所属	(694)	14.0	26.1	22.9	17.4	19.6	40.1	37.0

ゼミ所属の有無は、転職希望には関係がないようである。

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全く ない	ある計	ない計
全体		(2878)	16.4	25.1	21.9	17.6	19.0	41.5	36.6
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	16.2	22.6	23.3	17.4	20.5	38.8	37.9
	文化系部活動	(402)	15.9	29.1	23.9	14.7	16.4	45.0	31.1
	体育会系サークル	(410)	14.6	25.4	22.4	18.3	19.3	40.0	37.6
	文化系サークル	(559)	15.6	25.9	21.8	16.3	20.4	41.5	36.7
	学外活動:アルバイト含	(992)	17.3	24.4	21.0	19.3	18.0	41.7	37.3
	その他	(90)	22.2	21.1	15.6	17.8	23.3	43.3	41.1

体育会所属は転職希望が最も少なく、文化系部活をしていたグループが最も転職希望が高い。

次に年収と転職希望の関係を見る。高額所得層（1000 万円以上）と平均所得層以下（平均所得層を含む 400 万円以下）のグループを比較する。

対応のない2群の母平均の差の検定 1,000 万円以上と 400 万円未満のグループ(転職希望)

変 数	400 万円 未満(1,2)	1000 万円 以上(9,10,11)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	690	571		統計量:F 7.2185	統計量:t 33.1420	統計量:t 30.8524
平 均	1.568	3.384	1.815	自由度 1 689	自由度 1259	自由度 700.5657
不偏分散	0.246	1.774		自由度 2 570	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.496	1.332	0.836	P 値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

1,000 万円以上の高額収入世帯と 400 万円未満の世帯収入では、転職希望に差が見られた。低収入世帯は転職希望が強く、高収入世帯の転職希望は小さいことがわかる。その説明は不要であるが、この調査は回答結果の信頼性を高める。

あなたは現在、起業意識はどの程度ありますか。【独立・起業意識】

	回答数	%
全体	2878	100.0
1 非常にある	365	12.7
2 ややある	516	17.9
3 どちらともいえない	647	22.5
4 あまりない	551	19.1
5 全くない	799	27.8
6 ある計	881	30.6
7 ない計	1350	46.9

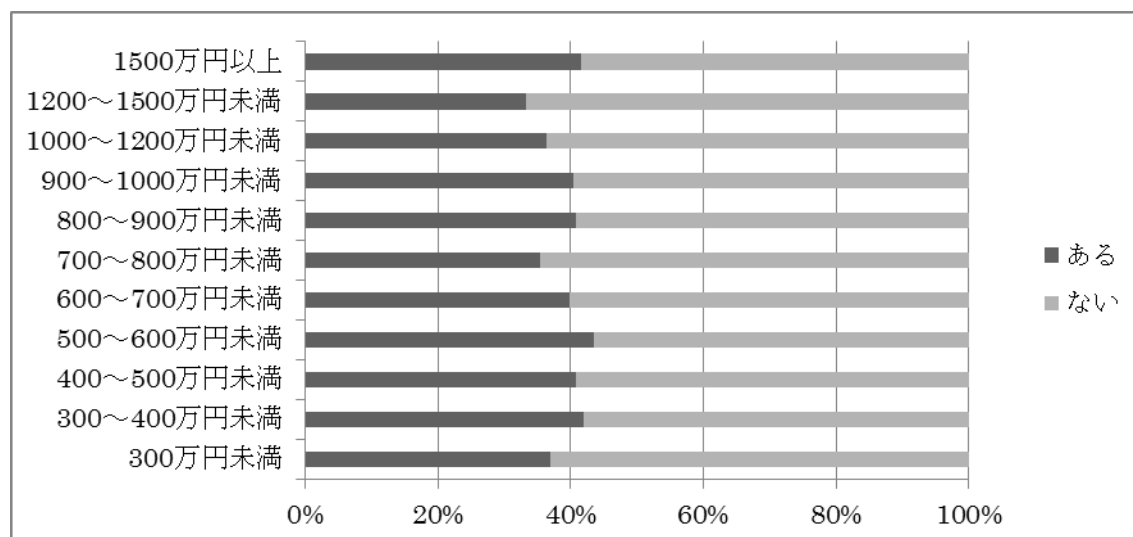
独立・起業意識のある人

	男性	女性
20 代	127	163
30 代	198	185
40 代	170	174
50 代	214	115

男女別の起業意識を分析すると、20代は男性約42%、女性約46%、30代は男性約44%、女性約46%、40代は男性約45%、女性約53%、50代では男性約48%、女性約52%が独立・起業意識を有している。すべての年代で女性の比率が高いのは、大学時代の諸活動などとは関係なく、女性の置かれた社会環境か女性の意識のいずれかによる問題であろう。一般的に女性はコミュニケーション力に長けているが、以前の調査で判明したことだが、女性は組織内の上司や部下の関係に適さない。年齢を超えてフラットな関係を構築できる傾向を持ち、このことが独立・起業意識にも反映されている可能性がある。

世帯年収別に独立・起業意識を調査したのが以下の表である。

			非常に ある	やや ある	あまり ない	全く ない	ある 計	ない 計
全体		(2231)	365	516	551	779	881	1350
世帯年収別	300万円未満	(298)	19.4	30	36	15	49	51
	300～400万円未満	(393)	23.9	30.3	25.9	19.9	54.2	45.8
	400～500万円未満	(354)	25.4	30.7	32.1	11.8	56.1	43.9
	500～600万円未満	(316)	23.7	31.7	31.2	13.4	55.4	44.6
	600～700万円未満	(248)	21.2	33.3	31.5	14	54.5	45.5
	700～800万円未満	(267)	20.1	30.2	30.2	19.5	50.3	49.7
	800～900万円未満	(207)	24.0	29.5	31.2	15.3	53.5	46.5
	900～1000万円未満	(223)	15.7	35.8	21.9	26.6	51.5	48.5
	1000～1200万円未満	(229)	18.5	29.6	31.2	20.7	48.1	51.9
	1200～1500万円未満	(162)	13.4	30.9	29.8	25.9	44.3	55.7
	1500万円以上	(181)	29.5	24.8	31.9	13.8	54.3	45.7



この調査では、世帯収入と起業意識には、明確な差が見られなかった。

次に偏差値と独立・起業意識の関係を調査する。

		n 数	非常に ある	ややある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	12.7	17.9	22.5	19.1	27.8	30.6	46.9
大学 偏差 値別	高い計(非常に 高い+やや高い)	(1289)	14.3	19.0	21.1	20.0	25.6	33.3	45.6
	普通	(1191)	11.6	17.5	23.5	18.6	28.8	29.1	47.4
	低い計(やや低 い+低い)	(398)	10.8	15.8	23.9	17.8	31.7	26.6	49.5

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(独立・起業意識)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)			
n	1289	398		統計量:F	1.0448	統計量:t	2.4955	統計量:t	2.5246
平 均	3.235	3.433	0.198	自由度 1	1287	自由度	1683	自由度	670.7090
不偏分散	1.930	1.847		自由度 2	396	両側P値	0.0127 *	両側P値	0.0118 *
標本標準偏差	1.389	1.359	0.030	P 値	0.6016	片側P値	0.0063 **	片側P値	0.0059 **

偏差値の高いグループは、低いグループに比較して独立・起業意識が若干高いことがわかる。転職希望とは逆の関係にあることは興味深い。

		n 数	非常に ある	ややある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	12.7	17.9	22.5	19.1	27.8	30.6	46.9
ゼミ 所属別	所属	(2184)	13.0	17.4	21.5	20.0	28.1	30.4	48.0
	無所属	(694)	11.7	19.5	25.5	16.6	26.8	31.1	43.4

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全く ない	ある計	ない計
全体		(2878)	12.7	17.9	22.5	19.1	27.8	30.6	46.9
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	16.2	17.2	22.4	20.5	23.8	33.4	44.2
	文化系部活動	(402)	15.2	21.6	21.6	17.7	23.9	36.8	41.5
	体育会系サークル	(410)	12.2	17.1	20.2	20.0	30.5	29.3	50.5
	文化系サークル	(559)	10.9	19.0	27.2	15.9	27.0	29.9	42.9
	学外活動:アルバイト含	(992)	11.2	16.8	21.7	20.8	29.5	28.0	50.3
	その他	(90)	14.4	14.4	16.7	17.8	36.7	28.9	54.4

課外活動では文化系部活動の起業意識が 1 番高く、次いで体育会系部活動、それ以外の活動が続く。大学が部活動と認める課外活動に所属するグループがいずれも 30%以上の起業意識であるのに対し、それ以外は 20%台である。所属した課外活動により独立・起業意識に影響を及ぼしているとする興味深い結果である。

下記の検定は、（体育会系部と文化系部活動）と（それ以外の課外活動）の平均の差を検定したものである。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会系部活とそれ以外(独立・起業意識)

変 数	体育会系 部活(1)	それ以外 (2,3,4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	826	2050		統計量:F 1.0447	統計量:t 3.7670	統計量:t 3.7321
平 均	3.162	3.375	0.213	自由度 1 825	自由度 2874	自由度 1494.61
不偏分散	1.940	1.857		自由度 2 2049	両側P値 0.0002 **	両側P値 0.0002 **
標本標準偏差	1.393	1.363	0.030	P 値 0.4474	片側P値 0.0001 **	片側P値 0.0001 **

ところで、転職の希望と起業意識の間には正の相関がある。

相関行列

	起業意識	転職希望
起業意識	1.0000	
転職希望	0.4129	1.0000

転職希望は、起業意識と次のような関係にある。

変数名	偏回帰係数	標準偏回帰係数	t 値	P 値	判 定
起業意識	0.4075	0.4129	24.3093	0.0000	**
定数項	1.6257		27.0319	0.0000	**

決定係数	0.1705
修正済決定係数	0.1702
重相関係数	0.4129
修正済重相関係数	0.4125
ダービンワトソン比	2.0114
赤池のAIC	9392.5742

両者の関係に関しては、因果関係を含めて仮説を構築できるであろう。その際、実際に独立起業した経験のあるグループに関して、転職回数などを調査することが必要になる。

次に、体力、忍耐力、精神力に関する調査を行う。

あなたは体力について、どの程度自信がありますか。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常にある	329	11.4
2	ややある	1024	35.6
3	どちらともいえない	765	26.6
4	あまりない	619	21.5
5	全くない	141	4.9
6	ある計	1353	47.0
7	ない計	760	26.4

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	11.4	35.6	26.6	21.5	4.9	47.0	26.4
大学 偏差値別	高い計(非常に 高い+やや高い)	(1289)	14.1	36.2	23.7	21.6	4.3	50.3	26.0
	普通	(1191)	9.1	35.7	29.8	20.7	4.7	44.8	25.4
	低い計(やや低い +低い)	(398)	9.8	33.4	26.1	23.4	7.3	43.2	30.7

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(体力の自信)

変 数	高い (1,2)	低い (4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	1289	398		統計量:F	1.0253	統計量:t	2.9790	統計量:t	2.9593
平 均	2.658	2.846	0.188	自由度 1	1287	自由度	1683	自由度	651.7600
不偏分散	1.201	1.231		自由度 2	396	両側P値	0.0029 **	両側P値	0.0032 **
標本標準偏差	1.096	1.110	0.014	P 値	0.7472	片側P値	0.0015 **	片側P値	0.0016 **

偏差値の高いグループと低いグループを比較すると、以外にも高いグループの方が体力に自信がある。
受験勉強は体力勝負なのかもしれない。

(%)

		n 数	非常に ある	ややある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	11.4	35.6	26.6	21.5	4.9	47.0	26.4
ゼミ所属別	所属	(2184)	12.4	36.4	25.4	21.0	4.9	48.7	25.9
	無所属	(694)	8.5	33.1	30.4	23.2	4.8	41.6	28.0

対応のない2群の母平均の差の検定 ゼミの所属と無所属(体力の自信)

変 数	所属(1)	無所属(2)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	2184	694		統計量:F	1.1042	統計量:t	2.7027	統計量:t	2.7729
平 均	2.698	2.824	0.126	自由度 1	2182	自由度	2874	自由度	1214.8410
不偏分散	1.175	1.064		自由度 2	692	両側P値	0.0069 **	両側P値	0.0056 **
標本標準偏差	1.084	1.032	0.052	P 値	0.1136	片側P値	0.0035 **	片側P値	0.0028 **

ゼミの所属グループと無所属のグループの比較でも所属していたグループが体力に自信を持っている。
これが意味するところは難しい。

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらと もいえな い	あまり ない	全く ない	ある計	ない計
全体		(2878)	11.4	35.6	26.6	21.5	4.9	47.0	26.4
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	22.6	40.5	21.4	13.6	1.9	63.1	15.5
	文化系部活動	(402)	8.5	34.6	25.1	25.4	6.5	43.0	31.8
	体育会系サークル	(410)	15.6	38.5	26.6	15.1	4.1	54.1	19.3
	文化系サークル	(559)	7.9	35.6	27.7	23.3	5.5	43.5	28.8
	学外活動:アルバイト含	(992)	8.4	33.8	29.0	23.9	4.9	42.1	28.8
	その他	(90)	8.9	23.3	23.3	33.3	11.1	32.2	44.4

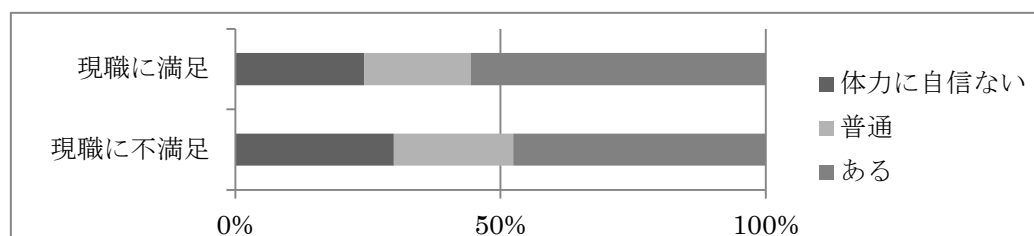
上記の表より、（体育会系部活動と体育会系サークル）のグループとそれ以外のグループの差を検定した。これは推測されたように体育会系の部活やサークルに所属していたグループが体力に自信を有していた。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会系部活、サークルとそれ以外(体力の自信)

変 数	体育会系 (1,3)	それ以外 (2,4,5,6)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	835	2043		統計量:F 1.0222	統計量:t 9.8697	統計量:t 9.9154
平 均	2.424	2.853	0.428	自由度 1 833	自由度 2874	自由度 1562.6032
不偏分散	1.097	1.121		自由度 2 2041	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	1.047	1.059	0.012	P 値 0.7117	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

下記のグラフに示したように、体力のある人は、体力のない人に比べ現職への満足度が若干高い。

図：体力への自信と現職での満足度



あなたは忍耐力について、どの程度自信がありますか。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常にある	514	17.9
2	ややある	1331	46.2
3	どちらともいえない	680	23.6
4	あまりない	301	10.5
5	全くない	52	1.8
6	ある計	1845	64.1
7	ない計	353	12.3

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全く ない	ある計	ない計
全体		(2878)	17.9	46.2	23.6	10.5	1.8	64.1	12.3
大学 偏差値別	高い計(非常に高 い+やや高い)	(1289)	22.5	46.4	19.9	9.9	1.4	68.9	11.2
	普通	(1191)	15.0	46.3	27.0	10.2	1.6	61.3	11.8
	低い計(やや低い +低い)	(398)	11.3	45.7	25.9	13.3	3.8	57.0	17.1

偏差値の高いグループは低いグループに比べて忍耐力もあると感じている。入試の際の受験勉強が培ったものであろうか。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(忍耐力)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	1289	398		統計量:F	1.0813	統計量:t 5.7233
平 均	2.212	2.526	0.314	自由度 1	1287	自由度 1683
不偏分散	0.899	0.972		自由度 2	396	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.948	0.986	0.038	P 値	0.3262	片側P値 0.0000 **

		n 数	非常に ある	ややある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	17.9	46.2	23.6	10.5	1.8	64.1	12.3
ゼミ	所属	(2184)	19.0	46.7	22.7	9.8	1.8	65.8	11.6
所属別	無所属	(694)	14.1	44.8	26.7	12.7	1.7	58.9	14.4

(体育会系部活と体育系サークル) と (それ以外) との忍耐力の平均の差の検定では、体力と同じようにゼミの所属の有無でも示されている。

対応のない2群の母平均の差の検定 ゼミの所属の有無(忍耐力)

変 数	所属(1)	無所属(2)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	2183	693		統計量:F 1.0033	統計量:t 3.5187	統計量:t 3.5217
平 均	2.287	2.431	0.145	自由度 1 2182	自由度 2874	自由度 1165.523
不偏分散	0.890	0.887		自由度 2 692	両側P値 0.0004 **	両側P値 0.0004 **
標本標準偏差	0.944	0.942	0.002	P 値 0.9655	片側P値 0.0002 **	片側P値 0.0002 **

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	17.9	46.2	23.6	10.5	1.8	64.1	12.3
課外活動別	体育会系部活動	(425)	25.4	48.0	18.4	7.5	0.7	73.4	8.2
	文化系部活動	(402)	14.9	48.5	24.6	10.7	1.2	63.4	11.9
	体育会系サークル	(410)	20.2	46.6	23.2	8.5	1.5	66.8	10.0
	文化系サークル	(559)	15.9	43.8	27.0	10.7	2.5	59.7	13.2
	学外活動:アルバイト含	(992)	15.6	46.6	24.1	11.6	2.1	62.2	13.7
	その他	(90)	21.1	37.8	20.0	17.8	3.3	58.9	21.1

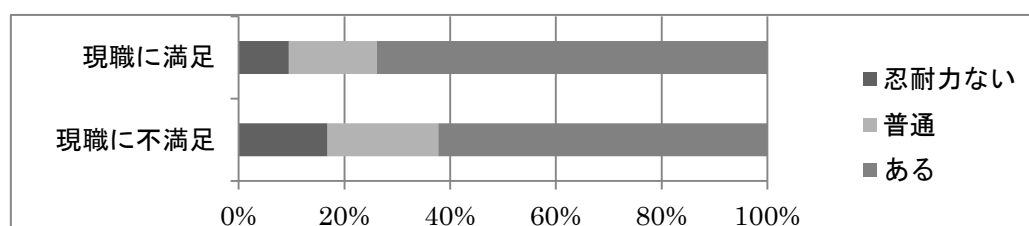
(体育会系部活と体育系サークル) のグループと (それ以外) のグループの差の検定についても下記のように同様の結果が得られた。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会系とそれ以外(忍耐力)

変 数	体育会系 (1,3)	それ以外 (2,4,5,6)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	835	2043		統計量:F 1.1012	統計量:t 5.4168	統計量:t 5.5276
平 均	2.173	2.382	0.209	自由度 1 833	自由度 2874	自由度 1617.302
不偏分散	0.825	0.908		自由度 2 2041	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.908	0.953	0.045	P 値 0.1013	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

忍耐力と現職の満足度の関係についても、忍耐力のあるグループは現職の満足度を高く評価している。

図：忍耐力の有無と現職の満足度



あなたは精神力について、どの程度自信がありますか。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常にある	429	14.9
2	ややある	1232	42.8
3	どちらともいえない	815	28.3
4	あまりない	335	11.6
5	全くない	67	2.3
6	ある計	1661	57.7
7	ない計	402	14.0

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全く ない	ある計	ない計
全体		(2878)	14.9	42.8	28.3	11.6	2.3	57.7	14.0
大学 偏差値別	高い計(非常に高 い+やや高い)	(1289)	19.9	44.3	24.0	9.9	1.9	64.2	11.8
	普通	(1191)	11.6	42.3	31.9	11.9	2.3	53.9	14.2
	低い計(やや低い+ 低い)	(398)	8.8	39.4	31.4	16.3	4.0	48.2	20.4

偏差値の高いグループは、体力や忍耐力と同じく、精神力に関しても高いと感じている。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(精神力)

変 数	高い(1,2)	低い(4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	1298	398		統計量:F	1.0558	統計量:t	6.8085	統計量:t	6.7114
平 均	2.296	2.673	0.377	自由度 1	1287	自由度	1683	自由度	644.0780
不偏分散	0.917	0.968		自由度 2	396	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	0.958	0.984	0.026	P 値	0.4931	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

		n 数	非常に ある	ややある	どちらとも いえない	あまり ない	全くない	ある計	ない計
全体		(2878)	14.9	42.8	28.3	11.6	2.3	57.7	14.0
ゼミ所属別	所属	(2184)	16.0	42.9	27.5	11.2	2.3	59.0	13.6
	無所属	(694)	11.4	42.4	31.0	13.0	2.3	53.7	15.3

ゼミの所属の有無に関しても、体力や精神力と同じ傾向が示されている。

対応のない2群の母平均の差の検定 ゼミの所属の有無(精神力)

変 数	所属(1)	無所属(2)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	2184	694		統計量:F 1.0566	統計量:t 2.7406	統計量:t 2.7800
平 均	2.410	2.524	0.114	自由度 1 2182	自由度 2874	自由度 1191.5738
不偏分散	0.927	0.877		自由度 2 692	両側P値 0.0062 **	両側P値 0.0055 **
標本標準偏差	0.963	0.936	0.026	P 値 0.3802	片側P値 0.0031 **	片側P値 0.0028 **

		n 数	非常に ある	やや ある	どちらとも いえない	あまり ない	全く ない	ある計	ない計
全体		(2878)	14.9	42.8	28.3	11.6	2.3	57.7	14.0
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	22.8	42.8	24.5	8.7	1.2	65.6	9.9
	文化系部活動	(402)	13.7	46.3	26.6	11.7	1.7	60.0	13.4
	体育会系サークル	(410)	18.5	41.2	28.3	10.2	1.7	59.8	12.0
	文化系サークル	(559)	12.0	42.8	30.9	11.1	3.2	54.7	14.3
	学外活動:アルバイト含	(992)	12.2	42.1	29.5	13.4	2.7	54.3	16.1
	その他	(90)	14.4	42.2	24.4	15.6	3.3	56.7	18.9

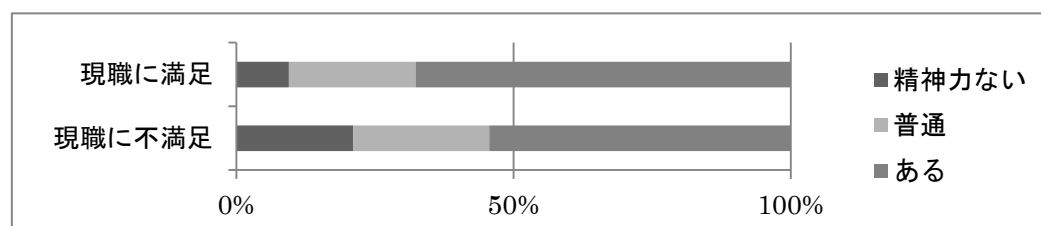
(体育会系部活と体育系サークル) のグループと (それ以外) のグループの差の検定についても下記のように体力や忍耐力と同様の結果が得られた。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会系部活・サークルとそれ以外(精神力)

変 数	体育会系 (1,3)	それ以外 (2,4,5,6)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	835	2043		統計量:F 1.0204	統計量:t 5.2828	統計量:t 5.3052
平 均	2.290	2.497	0.207	自由度 1 833	自由度 2874	自由度 1561.2831
不偏分散	0.895	0.914		自由度 2 2041	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.946	0.956	0.010	P 値 0.7355	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

体力、忍耐力と同様に、現職の満足度の関係についても、精神力のあるグループは現職の満足度を高く評価している。

図：精神力の有無と現職での満足度



あなたのリーダーシップは、どの程度あると思いますか。ご自身の感覚でお答え下さい。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	非常に高い	180	6.3
2	やや高い	826	28.7
3	普通	1239	43.1
4	やや低い	459	15.9
5	非常に低い	174	6.0
6	高い計	1006	35.0
7	普通	1239	43.1
8	低い計	633	22.0

		n 数	非常に 高い	やや 高い	普通	やや 低い	非常に 低い	高い計	普通	低い計
全体		(2878)	6.3	28.7	43.1	15.9	6.0	35.0	43.1	22.0
大学 偏差値別	高い計(非常に高 い+やや高い)	(1289)	9.2	36.0	38.6	12.5	3.8	45.2	38.6	16.3
	普通	(1191)	4.3	24.3	48.9	16.4	6.2	28.5	48.9	22.6
	低い計(やや低い +低い)	(398)	2.8	18.3	40.2	25.9	12.8	21.1	40.2	38.7

偏差値の高いグループは、リーダーシップに関しても偏差値の低いグループよりも、あると考えている。

対応のない2群の母平均の差の検定 偏差値の高いグループと低いグループ(リーダーシップ)

変 数	高い (1,2)	低い (4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)			
n	1289	398		統計量:F	1.1133	統計量:t	11.2367	統計量:t	10.9223
平 均	2.657	3.272	0.615	自由度 1	1287	自由度	1683	自由度	630.7529
不偏分散	0.886	0.986		自由度 2	396	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	0.941	0.993	0.052	P 値	0.1780	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

		n 数	非常に 高い	やや 高い	普通	やや 低い	非常に 低い	高い計	普通	低い計
全体		(2878)	6.3	28.7	43.1	15.9	6.0	35.0	43.1	22.0
ゼミ	所属	(2184)	6.5	29.8	41.9	15.9	5.9	36.3	41.9	21.8
所属別	無所属	(694)	5.3	25.4	46.7	16.1	6.5	30.7	46.7	22.6

ゼミ所属の有無についてはほとんど関係がないと思われる。

対応のない2群の母平均の差の検定 ゼミの所属の有無(リーダーシップ)

変 数	所属(1)	無所属(2)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	2184	694		統計量:F	1.0603	統計量:t	1.8900	統計量:t	1.9189
平 均	2.849	2.928	0.079	自由度 1	2182	自由度	2874	自由度	1193.3873
不偏分散	0.932	0.879		自由度 2	692	両側P値	0.0589	両側P値	0.0552
標本標準偏差	0.966	0.938	0.028	P 値	0.3504	片側P値	0.0294 *	片側P値	0.0276 *

		n 数	非常に 高い	やや 高い	普通	やや 低い	非常に 低い	高い計	普通	低い計
全体		(2878)	6.3	28.7	43.1	15.9	6.0	35.0	43.1	22.0
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	10.6	33.6	41.9	11.3	2.6	44.2	41.9	13.9
	文化系部活動	(402)	7.2	28.6	48.0	12.7	3.5	35.8	48.0	16.2
	体育会系サークル	(410)	6.8	30.5	42.4	16.1	4.1	37.3	42.4	20.2
	文化系サークル	(559)	4.1	27.9	43.8	17.2	7.0	32.0	43.8	24.2
	学外活動:アルバイト含	(992)	4.8	26.8	42.3	17.9	8.1	31.7	42.3	26.0
	その他	(90)	7.8	23.3	32.2	22.2	14.4	31.1	32.2	36.7

リーダーシップに関して、体育会系部活と体育会系サークルの比較をすると、部活のリーダーシップ意識が高い。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会系部活と体育会系サークル(リーダーシップ)

変 数	部活(1)	サークル(3)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	425	410		統計量:F	1.0411	統計量:t	2.8432	統計量:t	2.8422
平 均	2.618	2.800	0.182	自由度 1	423	自由度	831	自由度	828.3867
不偏分散	0.832	0.867		自由度 2	408	両側P値	0.0046 **	両側P値	0.0046 **
標本標準偏差	0.912	0.931	0.019	P 値	0.6815	片側P値	0.0023 **	片側P値	0.0023 **

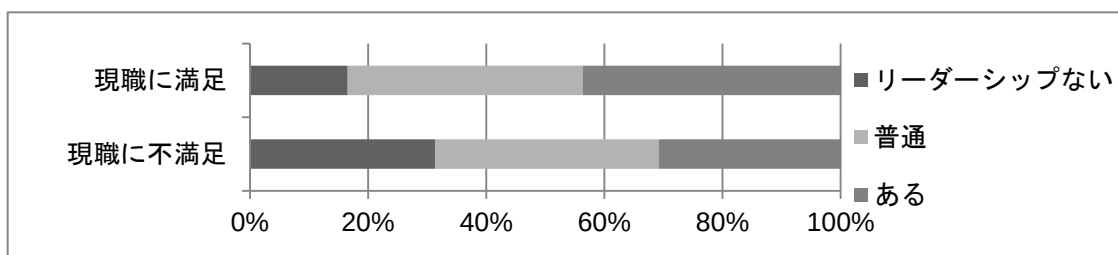
(体育会系部活と体育系サークル) のグループと (それ以外) のグループの差は、体育会系部活とサークルの差よりも明白である。

対応のない2群の母平均の差の検定 体育会系部活・サークルとそれ以外(リーダーシップ)

変 数	体育会系 (1,3)	それ以外 (2,4,5,6)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	835	2043		統計量:F 1.0892	統計量:t 5.7407	統計量:t 5.8446
平 均	2.709	2.934	0.225	自由度 1 833	自由度 2874	自由度 1609.0450
不偏分散	0.857	0.934		自由度 2 2041	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	0.926	0.966	0.040	P 値 0.1463	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

リーダーシップの有無は、下記のように現職の満足度に若干の関係がある。

図：リーダーシップの有無と現職での満足度



大学卒業後に、あなたの家賃・住宅ローンの支払いはどなたが負担していますか。注:選択肢の「かなりの期間」は、卒業後から現在まで2/3以上にわたる期間としてお考え下さい。注:就職先からの住宅手当については、考慮せず、自己負担と見なします。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	全額自己負担している	1700	59.1
2	両親など親族が負担してきた(実家暮らしを含む)	530	18.4
3	地方に異動したときなどに一時的に自己負担した	101	3.5
4	かなりの期間にわたり自己負担してきた	233	8.1
5	かなりの期間負担しないで済んだ	314	10.9

	全額自己負担	両親など 親類が負担	一時的に 自己負担	かなりの期間 自己負担	かなりの期間自己 負担しなかった
転職希望	684	254	47	94	116
希望なし	657	174	17	65	119

		n 数	全額自己 負担	親類が負担	一時的に 自己負担	かなりの期間 自己負担	かなりの期間 自己負担せず
全体		2227	1341	428	64	159	235
転職希望	あり	1195	57%	21%	4%	8%	10%
	なし	1032	64%	17%	2%	6%	12%

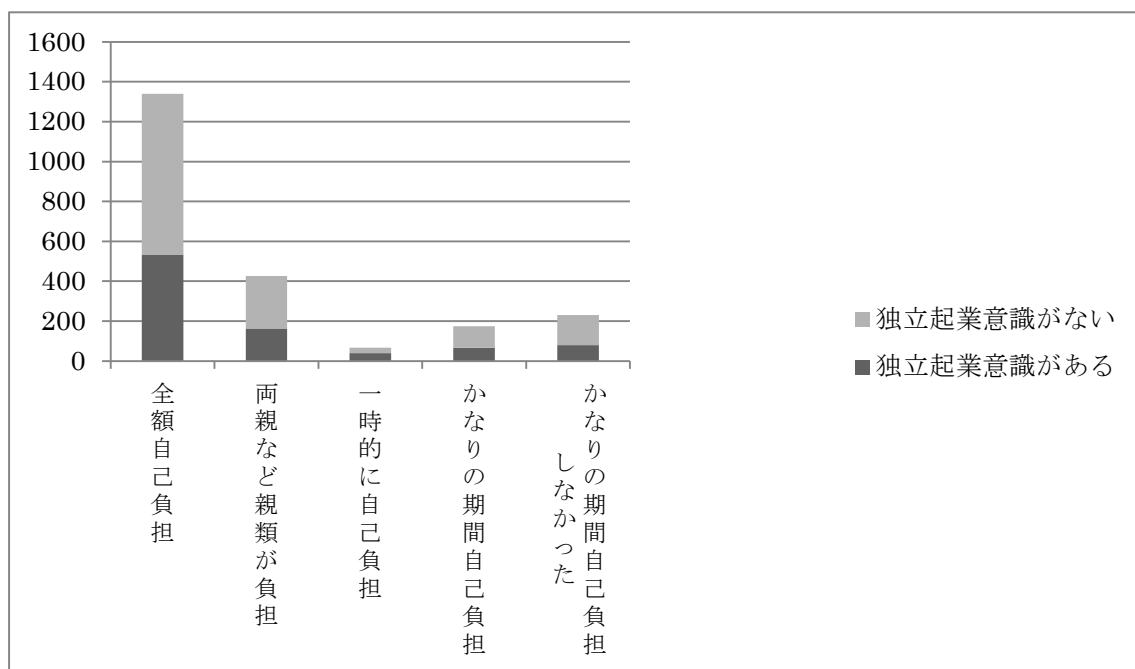
負債の残高が個人の自由な転職意識の妨げになる可能性や負債を自己で返済する責任感、あるいは返済可能な所得の大きさと転職意識の関係を考えていた。全額自己負担は転職希望ありが少なく、転職希望なしが多い。このことは、ローンを背負うことで自由な転職が難しくなるという解釈と同時に、ローンを負担できる経済力を有していることも示す。後者であれば、転職の必要性は低いと考えねばならない。

他方、親や親類が負担する場合には、転職希望が増加する。親が裕福であると考えるべきか、本人の経済力に問題があると考えるべきかにより仮説は異なる。しかし、いずれの場合でも、負債と転職の間には特別な関係があると考えるべきであろう。

	全額 自己負担	両親など 親類が負担	一時的に 自己負担	かなりの期間 自己負担	かなりの期間自 己負担しなかった	合計
起業意識あり	534	163	39	66	79	881
起業意識なし	805	264	27	109	151	1356

		n 数	全額 自己負担	親類が負担	一時的に 自己負担	かなりの期間 自己負担	かなりの期間 自己負担せず
全体		2237	1339	427	66	230	2237
独立起業意識	あり	881	61%	18%	4%	9%	9%
	なし	1356	59%	19%	8%	8%	11%

個人の負債残高と起業意識の間の関係は、転職希望ほどには見出せない。



		n 数	全額自己負担している	両親など親族が負担	一時的に自己負担	かなりの期間自己負担	かなりの期間負担しなかった
全体		(2878)	59.1	18.4	3.5	8.1	10.9
大学偏差値別	高い計(非常に高い+やや高い)	(1289)	61.0	16.7	3.3	9.0	10.1
	普通	(1191)	57.9	19.2	3.5	7.4	12.0
	低い計(やや低い+低い)	(398)	56.5	21.6	4.3	7.3	10.3

偏差値の高いグループは、両親など親族が負担するというケースが少ない。裕福な世帯が偏差値の高さに結び付いていたが、自己負担の割合は高い。逆に、偏差値の低いグループは親族などへの依存度が高くなっている。

		n 数	全額自己負担している	両親など親族が負担	一時的に自己負担	かなりの期間自己負担	かなりの期間負担しなかった
全体		(2878)	59.1	18.4	3.5	8.1	10.9
ゼミ所属別	所属	(2184)	59.9	18.5	3.5	8.2	9.8
	無所属	(694)	56.5	18.2	3.5	7.6	14.3

ゼミの所属の有無も、自己負担に関してはゼミに所属しているグループが多い。親族の負担に関しては、ほとんど無関係である。

		n 数	全額 自己負担 している	両親など 親族が負担	一時的に 自己負担	かなりの期間 自己負担	かなりの期間負 担しないかった
全体		(2878)	59.1	18.4	3.5	8.1	10.9
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	67.1	13.2	2.8	6.8	10.1
	文化系部活動	(402)	61.9	17.9	4.0	5.7	10.4
	体育会系サークル	(410)	59.0	17.6	5.4	6.6	11.5
	文化系サークル	(559)	56.0	20.0	4.5	8.6	10.9
	学外活動アルバイト	(992)	56.7	19.9	2.4	10.5	10.6
	その他	(90)	54.4	23.3	2.2	2.2	17.8

体育会系部活は自立心が強いためか、自己負担の率が高く、家族への依存心が弱いということがわかる。逆に、「その他」のグループは自己負担が少なく、両親など親族への依存度が高い。

同年代と比較して、あなたは金融資産をどの程度所有していると思いますか。あなたご自身の感覚でお答えください。注:金融資産とは、銀行預金、郵便貯金、株式、社債、国債、起業した場合の出資金、保険などを指します。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	かなり多い	101	3.5
2	やや多い	447	15.5
3	普通	1107	38.5
4	やや少ない	565	19.6
5	かなり少ない	658	22.9

		n 数	かなり 多い	やや 多い	普通	やや 少ない	かなり 少ない	多い 計	普通	少ない 計
全体		(2878)	3.5	15.5	38.5	19.6	22.9	19.0	38.5	42.5
出身大学 偏差値別	高い計(非常に高い+やや高い)	(1289)	5.1	21.6	38.9	16.8	17.5	26.8	38.9	34.3
	普通	(1191)	2.5	10.8	40.6	21.5	24.5	13.4	40.6	46.0
	低い計(やや低い+低い)	(398)	1.3	9.8	30.4	23.4	35.2	11.1	30.4	58.5

偏差値の高低による金融資産残高は、かなり関係しているようである。下記の検定は、世帯収入と金融資産の平均の検定である。金融資産の多いグループは少ないグループに比べて世帯収入が有意に多い。

対応のない2群の母平均の差の検定 金融資産の多いグループと少ないグループ(世帯収入)

変数	多い(1,2)	少ない(4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welchの方法)
n	547	1222		統計量:F 1.3183	統計量:t 16.5093	統計量:t 15.6653
平均	6.545	4.164	2.380	自由度 1 546	自由度 1767	自由度 931.6957
不偏分散	9.428	7.151		自由度 2 1221	両側P値 0.0000 **	両側P値 0.0000 **
標本標準偏差	3.070	2.674	0.396	P 値 0.0001 **	片側P値 0.0000 **	片側P値 0.0000 **

偏差値と収入との関係は説明済みであるから、偏差値の高いグループは、世帯収入も高く、金融資産の残高も高いということになる。

	n 数	かなり多い	やや多い	普通	やや少ない	かなり少ない	多い計	普通	少ない計
全体	(2878)	3.5	15.5	38.5	19.6	22.9	19.0	38.5	42.5
ゼミ所属	(2184)	3.6	16.3	38.8	19.4	21.9	19.9	38.8	41.3
所属別 無所属	(694)	3.2	13.1	37.5	20.3	25.9	16.3	37.5	46.3

ゼミの所属に関しても同様の結果となった。

		n 数	かなり 多い	やや 多い	普通	やや 少ない	かなり 少ない	多い 計	普通	少ない 計
全体		(2878)	3.5	15.5	38.5	19.6	22.9	19.0	38.5	42.5
課外活動別	体育会系部活動	(425)	6.6	17.2	39.5	17.9	18.8	23.8	39.5	36.7
	文化系部活動	(402)	4.0	18.4	42.3	19.7	15.7	22.4	42.3	35.3
	体育会系サークル	(410)	3.4	18.5	43.7	18.5	15.9	22.0	43.7	34.4
	文化系サークル	(559)	2.1	12.7	42.2	16.5	26.5	14.8	42.2	42.9
	学外活動:アルバイト含	(992)	2.5	14.8	32.7	23.1	26.9	17.3	32.7	50.0
	その他	(90)	6.7	6.7	33.3	14.4	38.9	13.3	33.3	53.3

課外活動に関しては、体育会系部活から体育会系サークルまでのグループとそれ以外で異なる傾向が見られた。

転職希望の有無と金融資産の残高については、転職希望のないグループの金融資産残高がわずかに多い傾向にある。世帯収入が多く、その結果として金融資産の残高が増えたとすれば、金融資産が多いグループは、現実的な選択肢として転職を望まないであろう。

対応のない2群の母平均の差の検定 転職希望の有無(金融資産の多さ)

変 数	あり (1,2)	なし (4,5)	差	等分散性の検定	t検定	t検定(Welch の方法)
n	1195	1052		統計量:F 1.1098	統計量:t 3.7074	統計量:t 3.7197
平 均	3.528	3.351	0.177	自由度 1 1193	自由度 2243	自由度 2230.2550
不偏分散	1.329	1.198		自由度 2 1050	両側P値 0.0002 **	両側P値 0.0002 **
標本標準偏差	1.153	1.094	0.059	P 値 0.0824	片側P値 0.0001 **	片側P値 0.0001 **

あなたの不動産の所有(資産価値ベース)は同世代と比べてどの程度あると思いますか。あなたご自身の感覚でお答えください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	かなり多い	84	2.9
2	やや多い	320	11.1
3	普通	1066	37.0
4	やや少ない	265	9.2
5	かなり少ない(ほとんどない)	1143	39.7
6	早い計	404	14.0
7	普通	1066	37.0
8	遅い計	1408	48.9

		n 数	かなり 多い	やや 多い	普通	やや 少ない	かなり 少ない	多い 計	普通	少ない 計
全体		(2878)	2.9	11.1	37.0	9.2	39.7	14.0	37.0	48.9
大学 偏差 値別	高い計(非常に 高い+やや高い)	(1289)	4.2	15.3	36.9	7.9	35.8	19.5	36.9	43.7
	普通	(1191)	2.2	8.1	38.8	10.0	40.9	10.3	38.8	50.9
	低い計(やや低 い+低い)	(398)	1.0	6.5	32.4	11.1	49.0	7.5	32.4	60.1

偏差値の高いグループは不動産を所有する割合が高い。この不動産が相続によるものか否かは判別できない。

ゼミの所属や課外活動別の不動産所有に関するデータを記載するが、いずれも特別な仮説を設けているわけではない。参考資料である。

		n 数	かなり 多い	やや 多い	普通	やや 少ない	かなり 少ない	多い 計	普通	少ない 計
全体		(2878)	2.9	11.1	37.0	9.2	39.7	14.0	37.0	48.9
ゼミに 所属別	所属	(2184)	2.7	11.1	37.4	8.8	40.0	13.8	37.4	48.8
	無所属	(694)	3.6	11.1	35.9	10.5	38.9	14.7	35.9	49.4

		n 数	かなり 多い	やや 多い	普通	やや 少ない	かなり 少ない	多い 計	普通	少ない 計
全体		(2878)	2.9	11.1	37.0	9.2	39.7	14.0	37.0	48.9
課外活動別	体育会系部活動	(425)	5.2	13.6	35.1	9.4	36.7	18.8	35.1	46.1
	文化系部活動	(402)	3.7	12.4	40.0	8.7	35.1	16.2	40.0	43.8
	体育会系サークル	(410)	3.7	11.7	38.5	9.0	37.1	15.4	38.5	46.1
	文化系サークル	(559)	1.6	11.8	39.4	8.8	38.5	13.4	39.4	47.2
	学外活動:アルバイト含	(992)	1.8	9.4	35.0	9.7	44.2	11.2	35.0	53.8
	その他	(90)	5.6	5.6	34.4	8.9	45.6	11.1	34.4	54.4

転職希望の有無と不動産の有り高を見ると、転職希望のあるグループの不動産が若干少ない。転職希望は、金融資産や不動産の有り高と関係していると考えられるであろう。転職は余裕がなければ良い転職先を見つけられないが、余裕のあるグループは転職の経済的必要性が相対的に小さい。

対応のない2群の母平均の差の検定 転職希望の有無(不動産の有り高)

変 数	あり (1,2)	なし (4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	1195	1052		統計量:F	1.0398	統計量:t	4.1905	統計量:t	4.1958
平 均	3.831	3.618	0.212	自由度 1	1193	自由度	2243	自由度	2217.0
不偏分散	1.462	1.406		自由度 2	1050	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	1.209	1.186	0.023	P 値	0.5150	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

他方、独立起業意識の高いグループは、不動産を持つ傾向にある。転職とは反対に、起業意識の形成は、経済的な余裕が背景になっている。

対応のない2群の母平均の差の検定 独立起業意識の有無(不動産の有り高)

変 数	あり (1,2)	なし (4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)	
n	881	1350		統計量:F	1.2568	統計量:t	5.3220	統計量:t	5.1960
平 均	3.575	3.850	0.275	自由度 1	879	自由度	2227	自由度	1725.2
不偏分散	1.626	1.294		自由度 2	1348	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **
標本標準偏差	1.275	1.137	0.138	P 値	0.0002 **	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **

あなたの借入金（住宅ローンなど）は同世代と比べてどの程度あると思いますか。あなたご自身の感覚でお答えください。

		回答数	%
全体		2878	100.0
1	かなり多い	94	3.3
2	やや多い	297	10.3
3	普通	731	25.4
4	やや少ない	186	6.5
5	かなり少ない(ほとんどない)	1570	54.6
6	早い計	391	13.6
7	普通	731	25.4
8	遅い計	1756	61.0

		n 数	かなり 多い	やや 多い	普通	やや 少ない	かなり 少ない	多い 計	普通	少ない 計
全体		(2878)	3.3	10.3	25.4	6.5	54.6	13.6	25.4	61.0
大学 偏差値別	高い計(非常に 高い+やや高い)	(1289)	3.4	11.6	22.8	6.7	55.4	15.1	22.8	62.1
	普通	(1191)	3.0	8.6	28.7	6.3	53.3	11.7	28.7	59.6
	低い計(やや低い +低い)	(398)	3.5	11.1	23.9	6.0	55.5	14.6	23.9	61.6

		n 数	かなり 多い	やや 多い	普通	やや 少ない	かなり 少ない	多い 計	普通	少ない 計
全体		(2878)	3.3	10.3	25.4	6.5	54.6	13.6	25.4	61.0
ゼミに 所属別	所属	(2184)	3.0	9.9	24.7	6.6	55.8	12.9	24.7	62.4
	無所属	(694)	4.2	11.5	27.7	6.1	50.6	15.7	27.7	56.6

		n 数	かなり 多い	やや 多い	普通	やや 少ない	かなり 少ない	多い計	普通	少ない 計
全体		(2878)	3.3	10.3	25.4	6.5	54.6	13.6	25.4	61.0
課 外 活 動 別	体育会系部活動	(425)	4.5	11.1	28.7	7.1	48.7	15.5	28.7	55.8
	文化系部活動	(402)	4.0	8.7	25.9	6.7	54.7	12.7	25.9	61.4
	体育会系サークル	(410)	2.9	10.0	26.3	6.8	53.9	12.9	26.3	60.7
	文化系サークル	(559)	2.0	11.4	24.3	6.6	55.6	13.4	24.3	62.3
	学外活動:アルバイト含	(992)	3.2	10.6	25.0	6.0	55.1	13.8	25.0	61.2
	その他	(90)	4.4	5.6	14.4	4.4	71.1	10.0	14.4	75.6

偏差値やゼミの所属、課外活動別の分類を参考に挙げているが、ここではローン残高が転職や起業意識に影響を与えるか否かを考察する。転職希望とローン残高との間には特別な関係は見受けられなかったが、独立起業意識が高いグループと低いグループでは以下のように、起業意識のあるグループのローン残高が意外に多い。ローン残高が多いというのは、不動産や世帯収入の多寡と関係する。ローンが多いということは、それだけ余裕があるという証であるかもしれない。

対応のない2群の母平均の差の検定 独立起業意識の有無(ローンの多さ)

変 数	ある (1,2)	なし (4,5)	差	等分散性の検定		t検定		t検定(Welch の方法)		
n	881	1350		統計量:F	1.2476	統計量:t	4.9807	統計量:t	4.8665	
平 均	3.845	4.112	0.266	自由度 1	879	自由度	2227	自由度	1730.10	
不偏分散	1.733	1.389		自由度 2	1348	両側P値	0.0000 **	両側P値	0.0000 **	
標本標準偏差	1.316	1.178	0.138	P 値	0.0003 **	片側P値	0.0000 **	片側P値	0.0000 **	

3 結果と考察

本調査報告書は、大学時代の諸活動として、学業への取り組み、成績、ゼミや体育会などの課外活動と、卒業後のキャリアとの関係について調査したものである。大学の偏差値、大学時代の学習環境や正課や課外活動への取り組み、大学時代の充実度、ゼミ生活などが、キャリアデザインや個人の能力の開発に与える影響を調査し、インテリジェントデザイン型組織の構築に必要な不可欠な要素を抽出することに目的があった。

ここで得られた結論は、以下のようになる。

大学の偏差値と世帯収入の関係をみると、偏差値の高さは世帯収入と相関している。偏差値の高いグループは1500万円以上も多く、他方、偏差値の低いグループは、低所得層に多い。

また、偏差値や大学時代の充実度の高低は、卒業後の勉強意欲の高低に関係していた。偏差値の高いグループは、低いグループに比較して、勉強の意欲が高い。高校時代の勉強の習慣が大学入学以降も継続する可能性がある。あるいは、一定の基礎学力が向学心の必要条件であるという仮説や、偏差値の高い有名大学への入学が、学習意欲にプラスの影響を持つという仮説も構築できそうである。

就職活動に関する満足度でも、偏差値の高さが重要な要素であった。成績の良し悪しも、就職活動の満足度に結び付いていることが確認できた。また、課外活動別で分析すると、体育会が高い満足度を示し、次いで体育系サークルであった。先輩後輩の関係が就職活動に関係している可能性がある。また、大学時代の充実度やゼミ活動が就職活動の満足度に結び付いていることも分かった。

出世については、偏差値の高いグループが速く、また体育会に所属していた者も、速い傾向にある。偏差値の高い大学に入学した者は、勉強の習慣が身につけているため、環境が変化した際の対応能力も高く、このことが出世という企業組織内の高い評価につながるのであろう。そして、課外活動の所属については、意外にも体育会系課外活動に所属していた者がよく勉強しており、この姿勢が社内評価に結び付いていると考えられる。

大学時代に体育会に所属するということは、日常生活における時間管理や健康管理、学業との両立においても一定のハードルになる。こうしたハードルを自らに課し、これをクリアする体力、忍耐力、精神力は重要であり、卒業後の社会人としての活動にも生かされると考えられる。

調査したサンプルの特性かもしれないが、半数以上が転職経験を持ち、その転職回数も多い。転職は、すでに一般的な行為になっている。転職回数の増加は、無形資産の蓄積に負の影響を持つ一方で、労働市場の流動化を意味する。人的資源が目的に応じて必要な組織に取り込まれる柔軟な社会を構築する必要がある。しかし、現状では、転職回数と世帯収入が負の関係にある。それゆえ、労働の流動化が好ましい資源配分を実現しているとは言えない。転職の回数は、偏差値の高いグループや体育会所属のグループで少なかった。最初の就活段階で優良企業に就職する可能性が高いため、転職の必要性が少ないと考えられる。

男女別の起業意識を分析すると、すべての年代で女性の起業意識が高い。大学時代の諸活動などとは関係なく、女性の置かれた社会環境や女性の意識によるものであろう。

課外活動では文化系部活動の起業意識が1番高く、次いで体育会系部活動、それ以外の活動が続く。所属した課外活動により独立・起業意識に影響を及ぼしているとする興味深い結果である。

体力・忍耐力・精神力について、偏差値の高いグループやゼミに所属していたグループ、そして体育会系部活動や体育会系サークルのグループが自信を有していた。体力、忍耐力、精神力などのある人

は、そうでない人に比べ現職への満足度も高い。これらは自らの応力に合った仕事に就いているか否かという関係があるのかもしれない。リーダーシップに関しても、同じような結果になっている。

転職希望や独立起業意識に関しては、負債の残高や金融資産の大きさなどが関係していた。転職希望のあるグループの金融資産残高が少なく、起業意識の高いグループは、不動産やローンの残高が多い傾向にある。ローン残高の大きさは、世帯収入に比例する。それゆえ、転職意識と独立起業意識は、会社を離れるという意識に関しては同じであるが、経済的な動機に関しては、反対の要因と考えねばならない。

以上から、いくつかのことが導かれる。大学時代に個人の能力を育成するためには、大学のブランドを高め、大学への帰属意識を持たせて、そのことを通じて個々人の大学生活における充実度を高める必要がある。しかし、大学のブランドは偏差値社会では簡単に形成できない。有名大学は、教員の教育努力と無関係に高い偏差値を保ち、新しい中小大学の多くは教員の教育努力に反して偏差値が高まらない。偏差値の高い大学に就職した教員は、教育に関するエネルギーを研究活動に振り向けることができるが、その成果を教育に還元する必要性は小さい。偏差値の高い大学に入学した学生は、自らの勉学意欲で自らの能力開発を行うことができるのである。

そのような考え方に則れば、日本の人材の底上げには、偏差値の相対的に低い大学への資源配分が必要になる。より多くの教育人材を相対的に偏差値の低い大学に振り向けることで課外活動やゼミの少人数化などの充足が可能になる。

他方、高度専門人の教育に特化するという選択もある。ある特定の能力に関しては格差を拡大させてでも一部の優秀な人材を育成するという目的を設定すれば、偏差値の高い大学のみ为重点的に資源を配分すべきである。この場合には、大学自体の数や学生定員を減らすという政策も検討しなければならない。

大学に入学し、充実した学生生活を送るということは、個人の能力の育成に重要な要素である。本人が帰属する大学という教育機関が魅力的ではなく、本人が満足しないのであれば、個々人の成長に繋がらない。誰もが大学に入学できる時代であるからこそ、大学以外の魅力ある人材育成機関を考えるとときかもしれない。分業経済における各自の役割に誇りを持てるような人材育成機関こそが重要と考える。